# 平泉町観光振興計画

令和5年3月

平 泉 町

# 目　次

**序章　はじめに** ―― **1**
1　計画策定の趣旨…… 1
2　計画の位置付け…… 1
3　観光振興計画の計画期間…… 1
**第1章　観光を取り巻く情勢と観光の現状** ―― **2**
1　国内を取り巻く観光の動向…… 2
2　前計画の進捗…… 7
3　平泉町の観光動向…… 13
4　観光ニーズの状況…… 19
5　平泉町観光の課題…… 26
**第2章　観光振興ビジョン** ―― **29**
1　観光振興の目標…… 29
2　基本方針…… 31
**第3章　観光振興プラン** ―― **33**
1　基本方針１　平泉の本質的価値の発信強化による訴求力の向上…… 33
2　基本方針２　多様な地域資源を活用した魅力あるコンテンツの提供…… 36
3　基本方針３　観光を支える基盤づくり…… 40
4　基本方針４　観光の総合的マネジメントと受入体制の整備…… 43
**第4章　計画の推進に向けて** ―― **47**
1　推進体制…… 47
2　進捗管理の方法…… 48

# 序章　はじめに

## 1　計画策定の趣旨

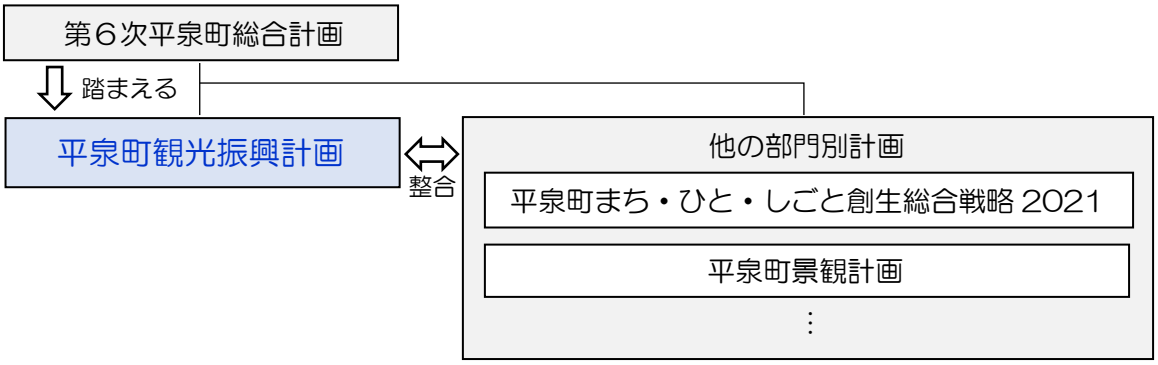
平泉町では、平成 30 年に向こう５年間を目標年次とした「平泉町観光振興計画」を策定し、観光誘客事業や受入態勢整備事業など各観光施策を展開してきました。また、2011 年に平泉の文化遺産が世界遺産に登録されて以降、観光客入込数も200 万人台を推移し、インバウンド観光も大きな伸びを示していましたが、令和２年初頭から世界的に拡大した新型コロナウイルス感染症の影響により国内の交流人口は激減し、地域の観光経済は、今なお大きな影響を受けています。

一方、令和３年 11 月に岩手県立平泉世界遺産ガイダンスセンターがオープンし、また、同年 12 月には、東北自動車道平泉スマートインターチェンジが供用開始され、平泉観光の新たな拠点づくり、ゲートウェイ機能が強化されるなど、ポストコロナに向けた受入態勢整備が進められています。

このような現況を踏まえ、今後「持続可能な新たな平泉観光の構築」をテーマとした滞在・体験・周遊型観光の整備を図るとともに、岩手県や東北全体へ波及効果をもたらす即効性かつ実効性のある観光施策を展開するための新たな「平泉町観光振興計画」を策定するものです。

## 2　計画の位置付け

「平泉町観光振興計画」は、平泉町政の基本的指針である「第６次平泉町総合計画（計画期間：令和 3 年度～令和 12 年度）」を踏まえる観光部門の基本計画であり、「平泉町まち・ひと・しごと創生総合戦略 2021（計画期間：令和 3 年度～令和 7 年度）」等の関連計画との整合を図りながら観光施策を体系的に示すものです。




## 3　観光振興計画の計画期間

計画の期間は、令和５年４月から令和 10 年３月までとします。

# 第1章　観光を取り巻く情勢と観光の現状

## 1　国内を取り巻く観光の動向

### （1）国の主な観光政策動向

#### ① ポストコロナにおける短期的取り組み

国では、観光は成長戦略の柱、地方創生への切り札であるとの認識のもと、平成28年３月に「明日の日本を支える観光ビジョン」を策定し、訪日外国人旅行者数令和２年 4,000 万人、令和 12 年 6,000 万人等の目標を設定し、各種政策を展開した結果、令和元年の訪日外国人旅行者数は 3,188 万人と７年連続で過去最高を更新しました。

しかし、令和２年初頭からの新型コロナウイルス感染症の影響により、国内旅行者や訪日旅行者の観光需要は大きく減少し、観光産業に深刻な影響が生じました。

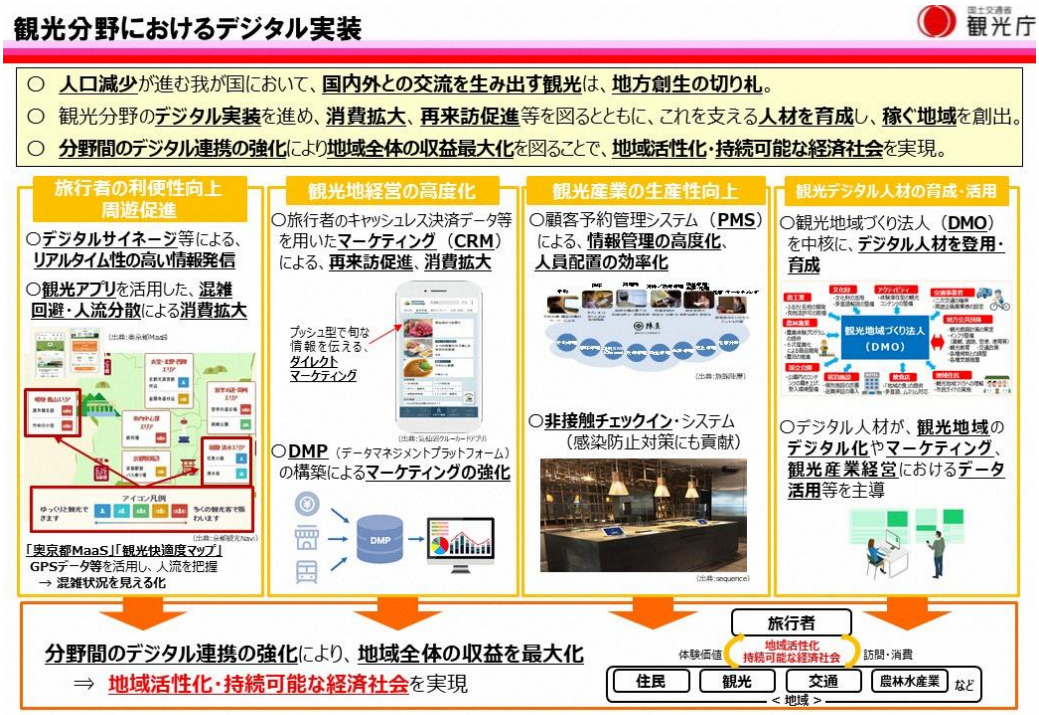
そこで、ポストコロナにおける対応を着実に進めつつ、観光立国を実現していくために、令和２年７月に今後１年を目途とした行動計画となる「観光ビジョン実現プログラム 2020」を策定しました。この中では、「１．観光関連産業の雇用の維持と事業の継続」「２．反転攻勢に転じるための基盤の整備」「３．国内旅行の需要喚起」「４．インバウンドの回復」を柱として、国内外の感染症の状況を十分に見極めつつ、国内旅行とインバウンドの両輪により、我が国の観光消費の８割を占める国内旅行需要を強力に喚起し、観光産業の回復と体質強化を図ることとしています。

#### ② 観光ＤＸの推進

旅行者の利便性向上や観光産業における生産性向上、地域間・観光事業者間の連携を通じた地域活性化と持続可能な経済社会の実現を目指して、観光分野におけるDX を推進するとしています。旅という非日常の心躍る体験の魅力を、デジタルの力でさらに高め、旅行者や地域をより豊かにすることを目指しています。

「観光 DX」は、業務のデジタル化により効率化を図るだけではなく、デジタル化によって収集されるデータの分析・利活用により、ビジネス戦略の再検討や、新たなビジネスモデルの創出といった変革を行うものとされています。

さらに観光地においては、新型コロナウイルス感染症の影響による観光需要の減少により厳しい状況が続いている中、地域や関係事業者と連携を図りつつ、旅行者に対する利便性の向上による消費機会の拡大、観光地域づくり法人（DMO）・地方公共団体による観光地経営の高度化、宿泊業における情報管理の高度化による観光産業の生産性向上、それらを支える観光デジタル人材の育成・活用の観点を踏まえ、地域の実情に応じて推進していくとしています。




※観光庁ＨＰ

## ③ 文化観光の推進

文化の振興を、観光の振興と地域の活性化につなげ、これによる経済効果が文化の振興に再投資される好循環を創出することを目的として、「文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光の推進に関する法律」（令和２年法律第 18 号）が令和２年５月に施行されました。来訪者が学びを深められるよう、歴史的・文化的背景やストーリー性を考慮した文化資源の魅力の解説・紹介を行うとともに、来訪者を惹きつけるよう、積極的な情報発信や交通アクセスの向上、多言語・デジタル通信・キャッシュレスの整備を行うなど、文化施設そのものの機能強化や、さらに地域一体となった取り組みを推進していくことが求められています。

## ④ 第２のふるさとづくり

新型コロナウイルス感染症の影響等により、働き方・居住に関する意識が変化する中で、密を避け、自然環境に触れる旅へのニーズなどが高まっています。また、大都市にはふるさとを持たない若者が増え、田舎にあこがれを持って関わりを求める動きも存在しています。こうした新しい動きも踏まえ、いわば「第２のふるさと」として、「何度も地域に通う旅、帰る旅」というスタイルを推進・定着させることで、国内観光の新しい需要を掘り起こし、地域経済の活性化につなげるために「第２のふるさとづくりプロジェクト」に取り組んでいます。

現在、旅行者と地域との関係を深化させ、継続した来訪につなげるためのモデル実証事業を実施しており、地域との関わりの創出、宿泊施設等での柔軟な滞在環境づくり、移動の足の確保などの検証を行っています。

## （2） 国内の観光動向

### ① 国内旅行

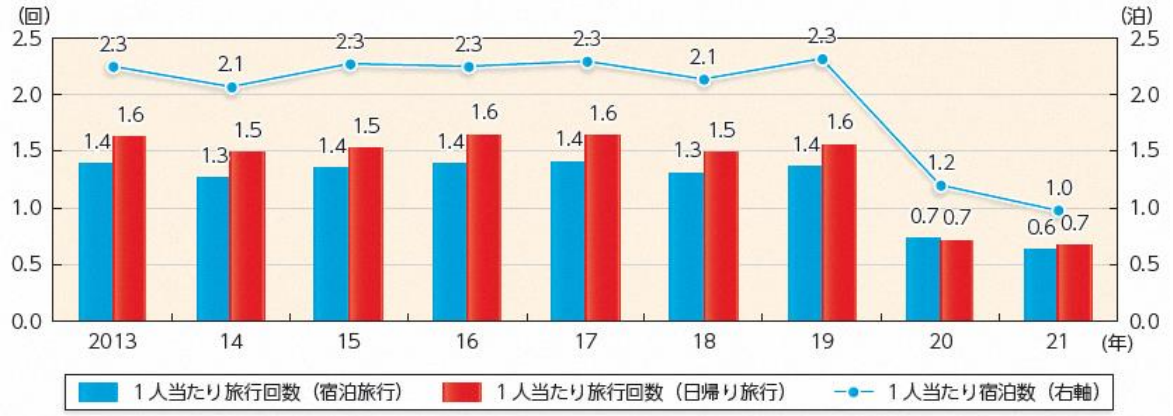
日本人の国内旅行者数は、平成25年（2013年）以降、概ね6億人前後で推移していましたが、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い令和2年（2020年）から令和3年（2021 年）にかけては大きく減少しました。令和3年（2021 年）には国内宿泊旅行者数は延べ1億 4,177 万人で、令和元年（2019 年）比 54.5%減となり、国内日帰り旅行者数も延べ1億 2,644 万人で、令和元年（2019 年）比 54.1%減となっています。

■日本人国内宿泊旅行延べ人数、国内日帰り旅行延べ人数の推移

※令和４年版観光白書

日本人１人当たりの旅行動向をみると、平成25年（2013年）以降、概ね横ばいの水準で推移していましたが、令和2年（2020年）以降は1人当たりの国内宿泊旅行の回数、日帰り旅行回数、１人当たり宿泊数ともに従前の水準から大きく下落しました。

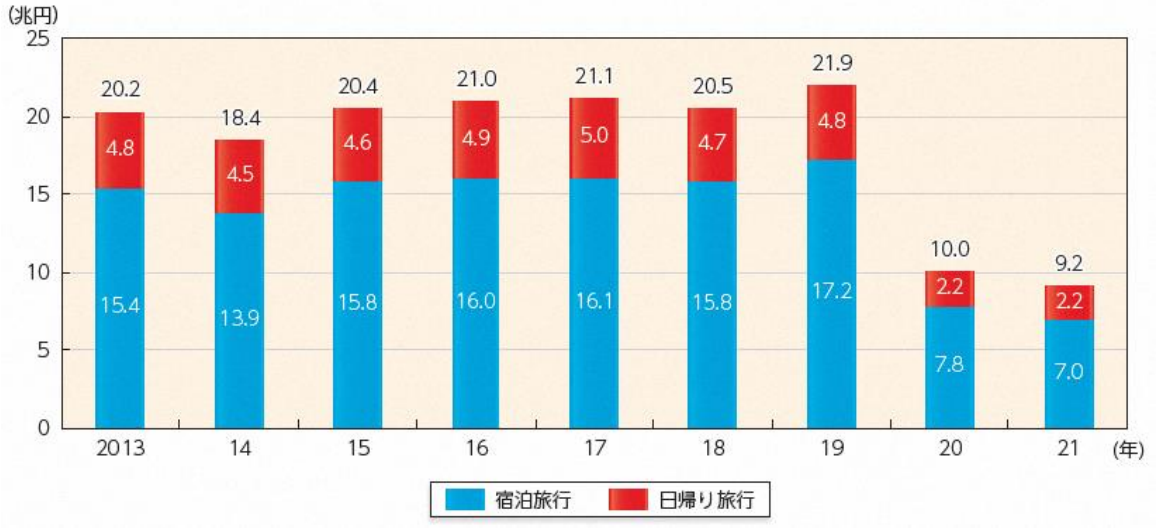
■日本人１人当たりの宿泊旅行、日帰り旅行の回数及び宿泊数の推移




※令和４年版観光白書

日本人国内旅行消費額は、概ね微増傾向にありましたが、令和３年（2021 年）には 9.2 兆円となり、令和元年（2019 年）比 58.1％減となりました。このうち宿泊旅行の国内旅行消費額は 7.0 兆円（令和元年（2019 年）比 59.2％減）、日帰り旅行の国内旅行消費額は 2.2 兆円（令和元年（2019 年）比 54.1％減）となりました。

■日本人国内旅行消費額の推移




※令和４年版観光白書

毛越寺浄土庭園

## ② 訪日外国人旅行

訪日外国人旅行者数は、令和元年（2019 年）までは急激な伸びをみせ過去最高を更新していましたが、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、令和２年（2020 年）から令和３年（2021 年）にかけては大きく減少しています。

■訪日外国人旅行者数の推移

※令和４年版観光白書

これに伴い、令和３年（2021 年）における訪日外国人旅行者による日本国内における消費額は 1,208 億円となり、前年比 83.8％減、令和元年（2019 年）比 97.5%減となっています。

■訪日外国人旅行消費額の推移

| 年 | 訪日外国人旅行消費額 |
|---|---|
| 平成 24 年 | 1 兆 846 億円 |
| 平成 25 年 | 1 兆 4,167 億円 |
| 平成 26 年 | 2 兆 278 億円 |
| 平成 27 年 | 3 兆 4,771 億円 |
| 平成 28 年 | 3 兆 7,476 億円 |
| 平成 29 年 | 4 兆 4,162 億円 |
| 平成 30 年 | 4 兆 5,189 億円 |
| 令和元年 | 4 兆 8,135 億円 |
| 令和２年 | 7,446 億円 |
| 令和３年 | 1,208 億円 |

※令和４年版観光白書

## 2　前計画の進捗

平成 30 年３月に策定した前計画（平泉町観光振興計画）は、

「～町民と観光客が織り成す持続可能な地域づくり～
農業×観光　体験・交流・回遊による滞在型観光の推進」

を観光振興の目標（キャッチフレーズ）として、計画期間（平成 30 年～令和４年）における目標数値を設定するとともに、３つの基本方針のもと 38 の具体施策に取り組むとしていました。

計画した具体施策の実施状況は下記のとおりですが、新型コロナウイルス感染症の流行が世界的な観光需要の引き下げにつながるなど本町の観光にも大きく影響したことにより、目標数値に対して実績値（令和４年）は大きく下回っています。

| 目標指標 | 基準値<br>平成２８年（暦年） | 目標値<br>令和４年（暦年） | 実績値<br>令和４年（暦年） |
|---|---|---|---|
| 観光客入込数 | 200.6 万人回 | 250.0 万人回 | 137.0 万人回 |
| 外国人観光客入込数 | 32.2 千人回 | 100.0 千人回 | 3.5 千人回 |
| 宿泊客数 | 38.5 千人回 | 46.2 千人回 | 29.8 千人回 |

### 基本方針１　体験・交流・回遊を目的とした観光資源のネットワーク化

#### （１）体験プログラムの支援・展開

【具体施策】
①世界遺産の社寺・仏閣による新たな体験プログラムの展開
②ウォーキングトレイル・ルートを活用した体験プログラムの展開
③四季を通じた体験プログラムの開発
④束稲山麓の桜情景復活プロジェクトの展開【長島地区】
⑤観光客・町民が体験できる学習プログラムの開発

世界遺産の社寺・仏閣による新たな体験プログラムと連動した寺社仏閣巡りの検討や、広域周遊観光を目指したスタンプラリー等の周遊促進企画を実施したほか、ウォーキングトレイルガイド養成や、平泉ウォーキングトレイルと西行桜の森ウォーキングルートのパンフレットを作成しました。

体験プログラムの開発については、宿泊交流体験施設「浄土の館」での文化体験活動を実施したことや、新社会教育施設の活用方法について検討を行いましたが、その他は新型コロナウイルス感染症の影響もあり、取り組みがあまり進まず、引き続き今後の課題となっています。

さくらの会等の関係団体が束稲山を護り伝えていく活動を活発的に展開していることなどから、今後は、各団体の協力のもと、引き続き平泉ならではの魅力のあるプログラムの開発を推進することとその実践が課題となっています。

### （２）町民と観光客との交流促進

【具体施策】
①グリーン・ツーリズムの更なる展開（教育旅行、体験と宿泊を分けた一般観光客・外国人観光客の受入）
②道の駅の農作物販売の強化・農家交流
③道の駅を活用した体験農園の展開
④民泊の推進など、農家の地域生活に触れ合える観光メニューの開発
⑤社会教育施設を活用した学習プログラムの展開

道の駅での農産物の販売を通して、地域特産物の新たな流通・販路拡大や農家と消費者（観光客）の交流促進を図るとともに、古民家整備や農家民泊の情報発信、地域の生活に触れる観光メニュー開発により、農業と観光の活性化を図りました。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症の影響により利用者ニーズが低迷するなか、グリーン・ツーリズム受入農家の意向も不明な状況となっており、その把握が急がれます。

また、道の駅と観光農園とのマッチングにより、果物狩りなどの体験メニューや滞在型観光メニュー作りを検討することとしていましたが、実施に至っていません。そのため、今後、地域特産品である果物やお米など魅力ある農業資源を体験できる新たな滞在型観光の体制づくりが必要です。

町の中心部に整備された社会教育施設の活用プログラムの検討については、引き続きの課題となっています。

### （３）回遊型街づくりの推進

【具体施策】
①中尊寺通り・毛越寺通り・駅前の賑わい整備【平泉地区】
②空き家・空き店舗に対する改善支援【平泉地区】
③観光関連事業者等が一体となったまち歩きの推進

観光客が回遊しやすい環境整備に向けて、岩手県により中尊寺通りの改良整備が行われたほか、空き店舗を活用して新たな起業を目指す人のための志業シェアハウスの開設、町内の飲食店や土産店、交通事業者、観光施設、行政が連携したクーポン付きパンフレットの作成を実施しました。

しかしながら、まちなかには依然として空き地や空き家、空き店舗も数多く見受けられることから、今後は、魅力あるまち並み形成や賑わい創出につながる沿道土地利用を引き続き進めるとともに、関係者の連携のもと賑わい創出イベントや体験メニューなどの回遊型・滞在型観光のための仕掛けづくりを実施していくことが求められます。

## （４）地域資源の魅力・ブランドの創出

【具体施策】
①既存特産品のブランド力の強化／販売促進
②「平泉の地域資源」をフル活用した観光メニューの開発
③平泉スマートインターチェンジ周辺の土地活用

既存の特産品に加えて、関係組織が一堂に介した商品開発を行い、道の駅への出店を中心として地域の特産品の販売強化を行い特産品のブランド化を図ったほか、中尊寺や毛越寺を中心として町内全域の魅力ある史跡、名勝等含めたモデルコースや体験メニューの構築を行い、町内全域に広がる史跡・名勝を巡る観光客の誘客に繋げました。しかしながら、飲食やお土産品など認知度がまだまだ低いことから、さらなるブランド化の取り組みが必要です。

令和３年１２月に平泉スマートインターチェンジの供用が開始されましたが、隣接する駐車場周辺の土地利用の検討や駐車場を活用した集客イベント等の開催については、新型コロナウイルス感染症の影響から実施が困難な状況であり、引き続き課題となっています。

道の駅平泉

## 基本方針２　住民参加で進める観光客との交流・誘客促進

### （１）受入環境の整備

【具体施策】
①観光関連施設のユニバーサルデザイン化、観光バリアフリーの推進
②観光交通の充実
③国際化に対応したまちづくり

町内の観光施設や公共トイレ施設に対しては、ユニバーサルデザイン化、バリアフリー化が進められ、観光客の利用度改善が図られています。

新型コロナウイルス感染症の影響を受け、観光客数の大幅な減少とともに、巡回バスが長期間の限定運行となったことから、今後の観光客数回復に向けての交通体系の見直しも必要となっています。

国際化への対応に関して、パンフレット等の情報発信ツールの活用による海外セールスや、国際交流員（英語圏）の登用を実施しましたが、ポストコロナに向けたインバウンド観光客の受入態勢強化が必要です。

### （２）人材の育成

【具体施策】
①観光ガイドの維持、育成
②Ｉターン等の受け入れによる人材育成
③観光経営マネジメントの人材育成

平泉町観光ガイド事務所や古都ひらいずみガイドの会等の各ガイド団体が中心となって、受入態勢整備と人材の育成を図ってきましたが、今後も観光客の利便性向上に向けてさらなるガイド育成が必要です。

新たな開業支援を行うための人材育成プログラムの開発・実施と、空き店舗の利活用に資する情報発信等を行いましたが、今後は、こうした支援を受けた人材の町内での起業の促進が求められます。

DMO による各種事業実施により、新たな観光客層へのアプローチや地域資源の掘り起こしが進められてきましたが、今後、稼ぐ観光地化を目指してさらなる資源開発や人材マネジメントの展開が課題となっています。

### （３）情報発信、誘客プロモーションの強化、適切な情報発信

【具体施策】
①観光プロモーション・ツールの充実、適切な情報発信
②ＰＲ活動の推進
③教育旅行の誘致・受入
④国や県等と連動した訪日旅行プロモーションの実施

パンフレット等の既存媒体に加え、デジタル技術の進展に応じた新たな電子媒体（ホームページ、スマートフォン、SNS など）の活用や、平泉 FM 等のマスメディアによる情報発信や PR を行ってきました。今後は、ニーズの把握を的確に行いながら、ターゲットに応じた情報発信のあり方を検討する必要があります。

新型コロナウイルス感染症の影響下においても、教育旅行の訪問先の方面変更や体験プログラムの工夫等により、教育旅行の受入れを行ってきました。こうした動きを活かして、世界遺産平泉に関する学びをさらに深めるための環境づくりが求められます。

一方、インバウンド観光について、観光関係機関・団体が主催する商談会等による誘致活動を展開していましたが、コロナ禍による渡航制限措置の影響を受けたことから、インバウンド誘致の推進について再構築する必要があります。

### （４）町民の意識醸成・効果測定

【具体施策】
①「平泉学」を土台としたおもてなしの心の醸成
②ホスピタリティの向上、多文化共生事業の推進
③観光モニタリングの実施

町内児童生徒への「平泉学」の浸透により、次代の観光地平泉を担う人材の育成を進めています。

多文化共生の講習会や国際交流員によるによる町民の意識向上と国際化観光地としての機運醸成を図ってきました。引き続きこうした取り組みによりインバウンド観光客の受入態勢整備が必要となっています。

各実施機関による観光客へのアンケート調査、マーケティング、モニタリング等の調査を実施しました。

こうした観光客等のニーズ把握や動向チェックを引き続き実施していくとともに、国際化観光地に向けた人材育成が必要です。

## 基本方針３　広域連携による平泉町の魅力の向上

### （１）体験プログラムの支援・展開

【具体施策】
①観光推進体制の窓口の組織化
②世界遺産平泉・一関ＤＭＯとの協働
③観光資源の保護・保全
④他産業、他分野との連携強化、可能性の検討

平泉観光推進実行委員会が中心となり、平泉観光に関わる主要な団体等と連携しながら、観光客の利便性向上や受入態勢の整備・充実を図るとともに、DMO が中心となり、新たに稼ぐ観光地づくりに向けた取り組みを行いました。今後は、他の観光関連団体とのより効果的な連携のあり方を検討していく必要があります。

また、平泉世界遺産の日（６月 29 日）に合わせた環境整備活動等の実施により、貴重な文化財や自然景観を守るための町民理解を深め、世界遺産の価値向上につなげました。

農業を活用した体験プログラムの構築などを計画しましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、民泊受入などが停滞しました。今後は、受入側と利用側の意向を把握しながら、適切なプログラムのあり方を検討する必要があります。

### （２）広域観光体制の充実

【具体施策】
①周辺・近隣市町村との事業連携
②東北地方との連携強化
③エクスカーションによる観光客の誘客
④広域・国際的なテーマ連携の推進
⑤町民の地域間交流の促進

一関市・奥州市・岩手県県南広域振興局や観光協会・商工会議所・商工会で構成する世界遺産連携推進実行委員会、花巻・遠野と連携するインバウンド観光推進など、周辺地域との連携強化を図ってきました。

新型コロナウイルス感染症の影響により、県境を跨いだ観光連携組織との活動が制限され、また、恒例のイベント等が中止・縮小されましたが、感染症対策を行いながらエクスカーション等を実施しました。

また、松尾芭蕉の「おくのほそ道」に関連する自治体との連携による観光推進や、日本遺産による周辺自治体との連携、姉妹都市である和歌山県田辺市や友好都市である東京都江東区など、友好自治体との交流活動を継続しました。こうした広域連携による態勢強化を引き続き推進していく必要があります。

# ３　平泉町の観光動向

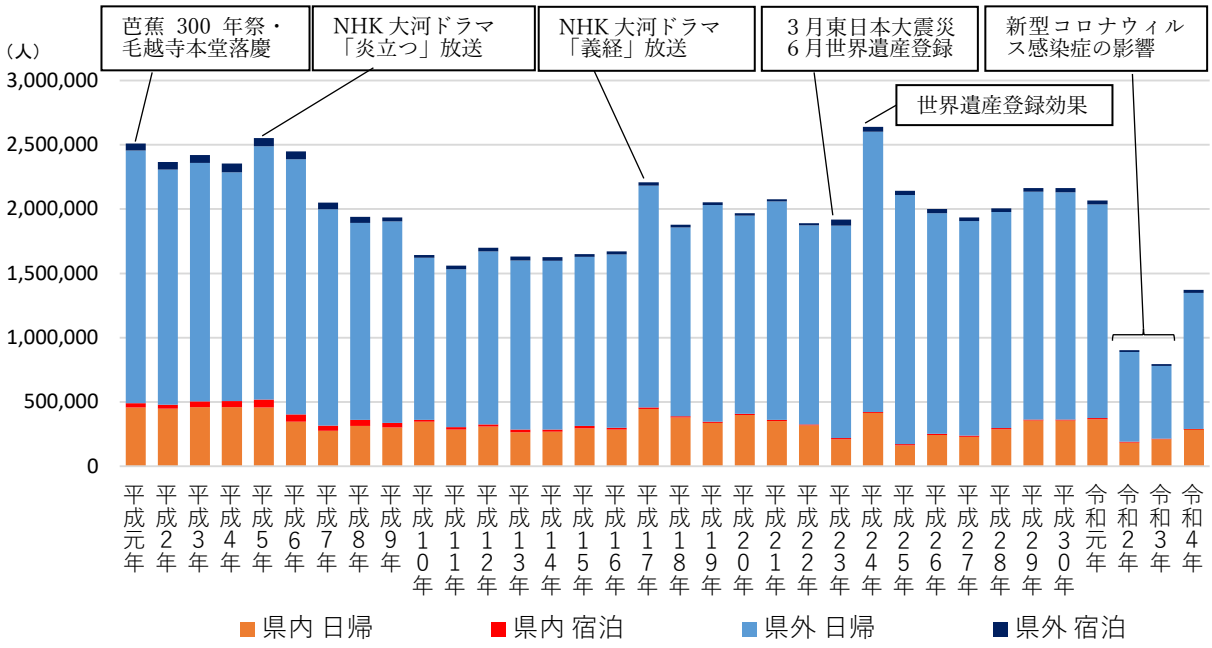
## （１）観光客入込数

観光客入込数の推移をみると、過去 15 年間は、概ね年間 200 万人前後で推移してきました。

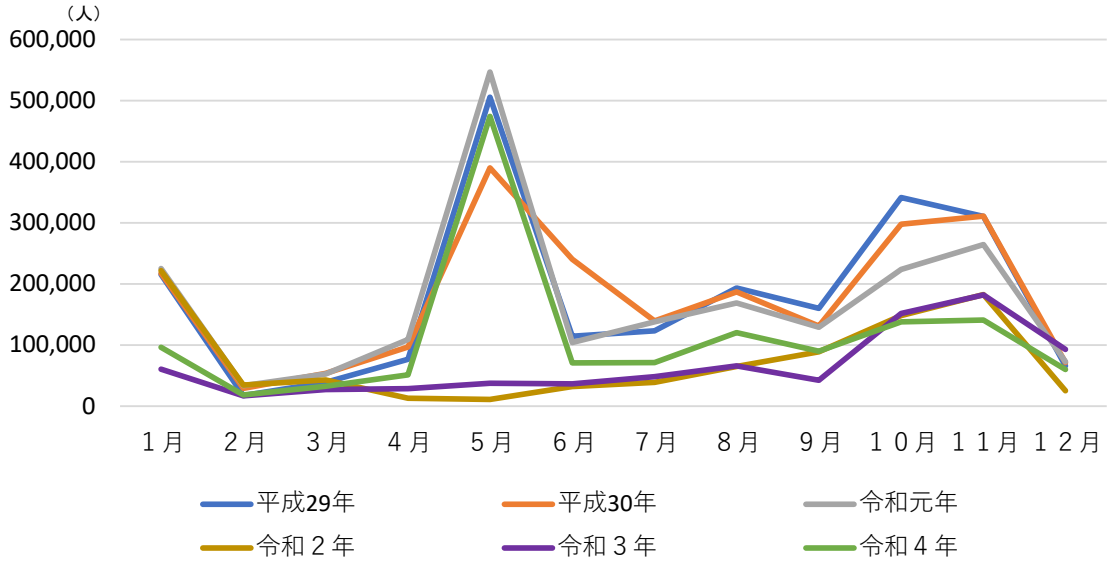
令和２年から令和 ３ 年にかけては、新型コロナウイルス感染症の影響で落ち込みましたが、令和４年では回復傾向に転じています。

月別にみると、令和４年の上半期には概ねコロナ禍前の水準となっており、徐々に観光客が戻りつつあります。

■観光客入込数の推移




■月別観光客入込数

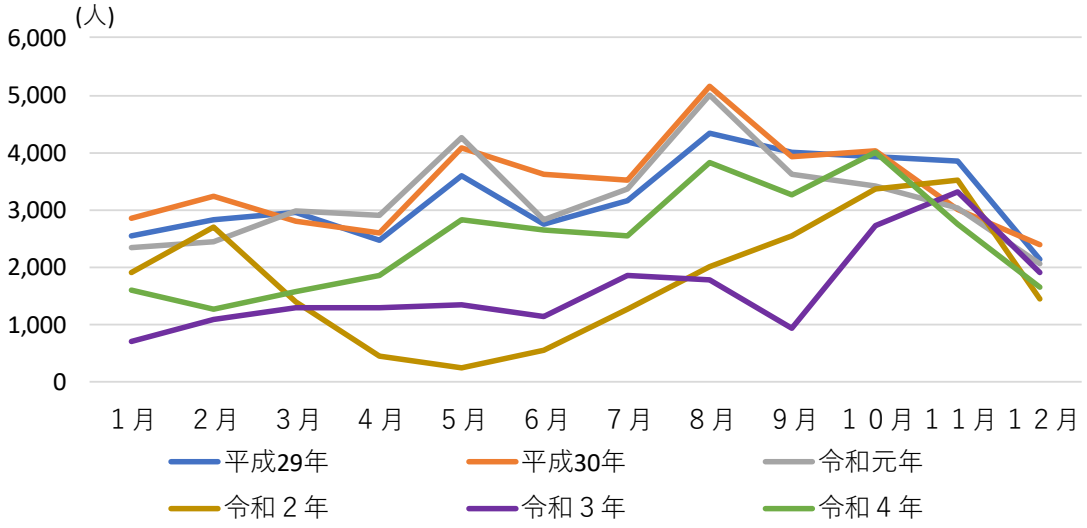


## （2） 宿泊客数

例年、８月をピークに５月から１０月にかけて宿泊客が多く、冬期に少ない状況です。

令和２年から令和３年にかけては、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、全国旅行支援等の対策の影響が現れており、令和４年の後半にはコロナ禍前の水準に近づいています。

■宿泊客数

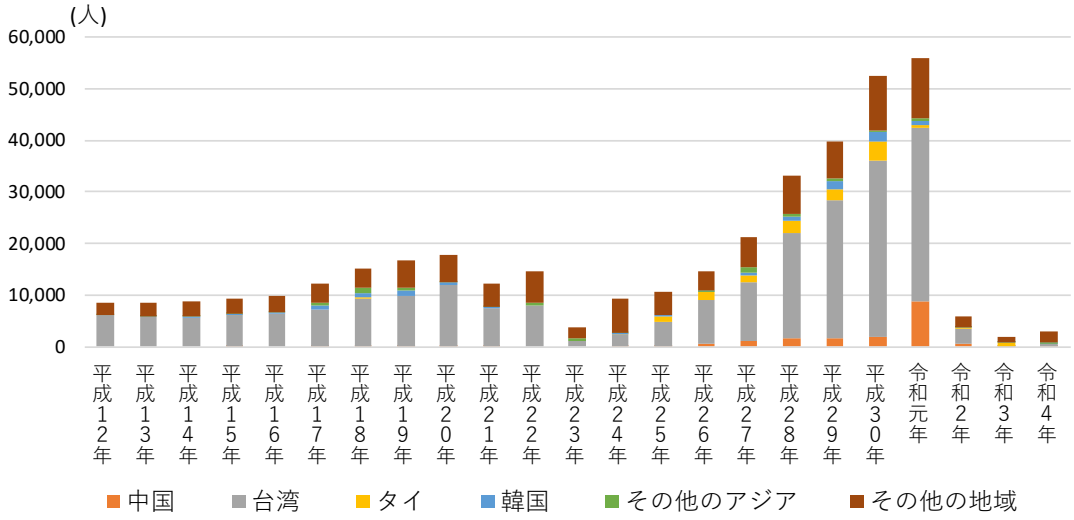



## （3） 外国人観光客数

コロナ禍前には、国の「ビジット・ジャパン事業」等のインバウンド政策の効果が顕著に現れて、令和元年にかけて急激な伸びをみせていました。

特に、台湾からの訪日客が多く、中国、タイからの観光客も増え始めています。

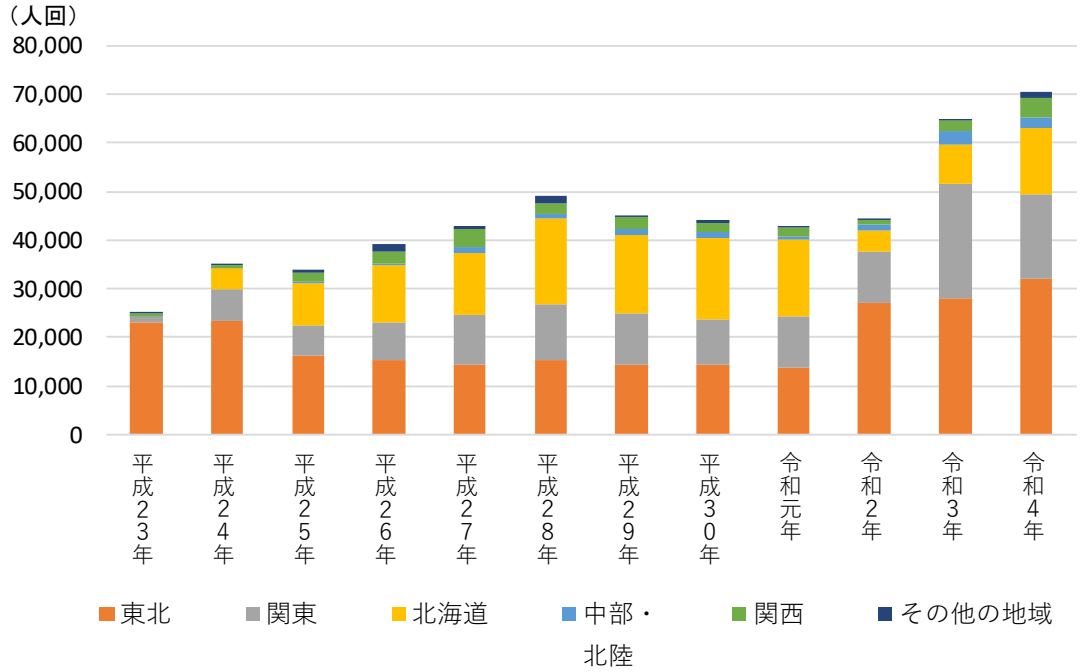
■外国人観光客数



## （4） 教育旅行客入込数

新型コロナウイルス感染症による観光客入込数の減少期にあたる令和３年においても、教育旅行客の入込数は伸びており、令和４年時点では特に東北・北海道エリアの伸びが顕著になっています。

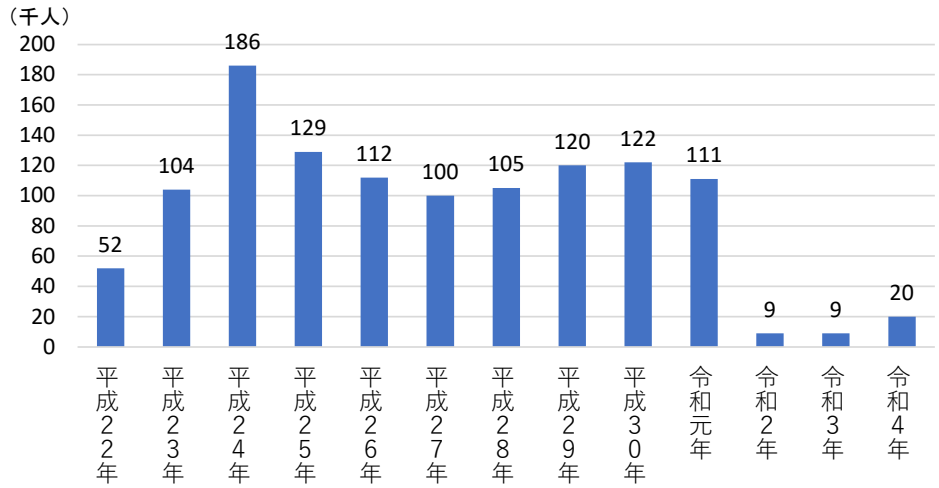
■教育旅行客入込数




## （5） 平泉巡回バスるんるんの利用状況

平泉駅からの二次交通として運行している巡回バス「るんるん」は、東日本大震災の影響を受けた平成 23 年度以降、世界遺産登録後は利用者が増加し、岩手デスティネーション・キャンペーンが開催された平成 24 年度には 18 万 6 千人に達し、その後は 10～12 万人程度で推移、令和２年度以降は、土日祝日のみ運行や冬季運休となっています。

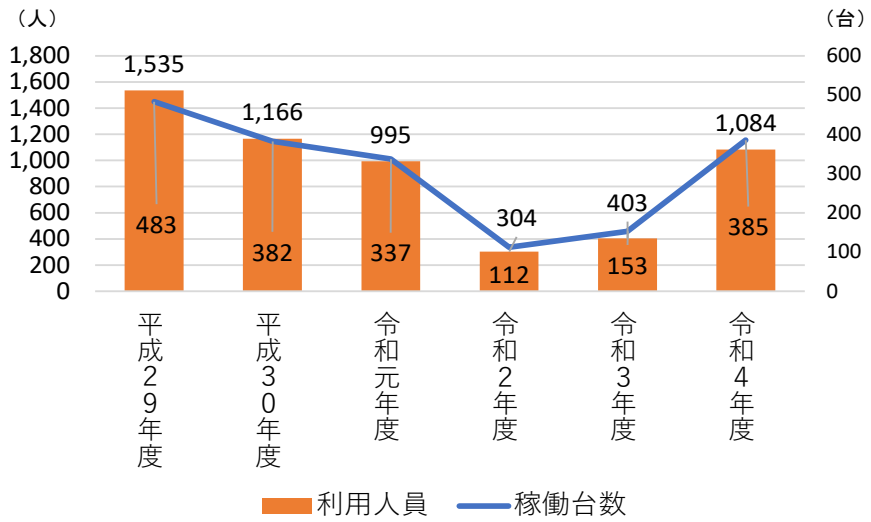
■平泉巡回バスるんるん利用人員の推移



## （6） 「語り部タクシー」の利用状況

タクシー乗務員が利用者の希望を取り入れながら平泉の史跡や観光地を案内する「語り部タクシー」は、平成 29 年度以降減少傾向にありましたが、令和４年度には新型コロナウイルス感染症流行による制限緩和により回復傾向にあります。

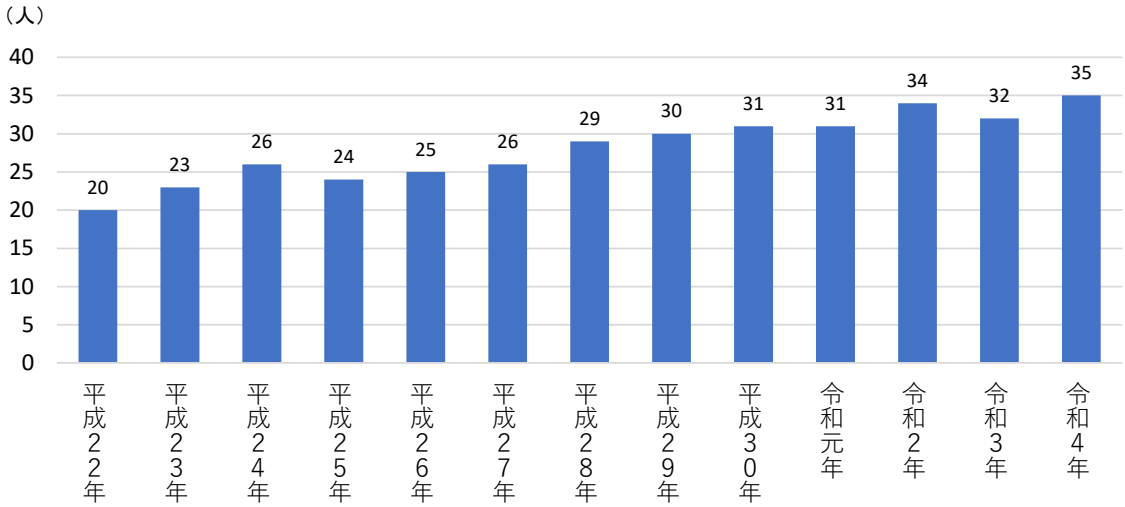
■語り部タクシーの利用推移




## （7） 観光ボランティア登録数の状況

観光ボランティアガイドの登録者数は、継続して増加傾向にあり、現在「毛越寺・中尊寺コース」、「奥のほそ道追体験コース」、「毛越寺・達谷窟コース」、「ゆっくりと世界遺産コース」の４コースが設定されているほか、利用者の希望に沿ったコースプランニングへも対応しています。

■古都ひらいずみガイドの会の登録者数の推移



## （8） 町営駐車場の利用状況

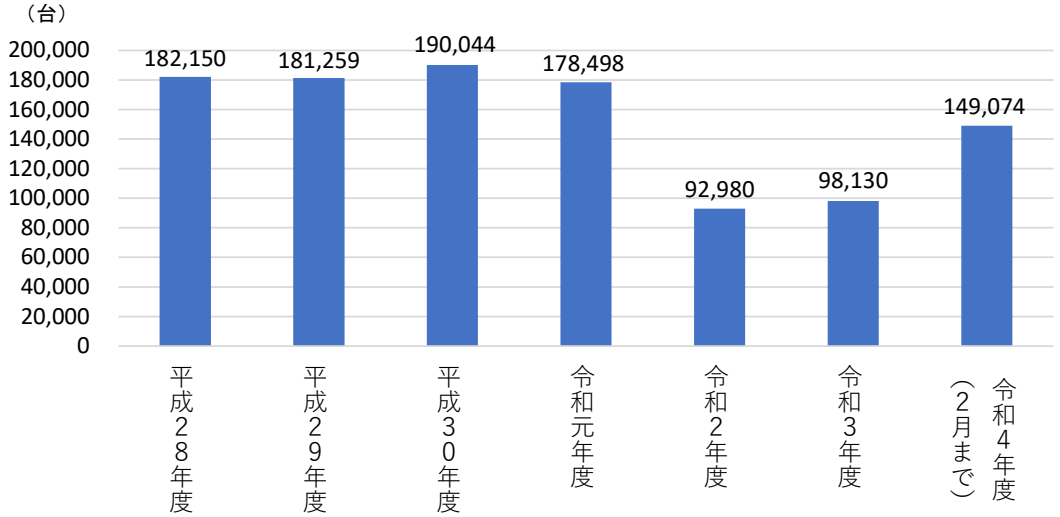
中尊寺第１・第２、毛越寺の３か所の町営駐車場の利用台数は、いずれも平成30 年をピークに減少傾向が見られましたが、令和４年度（４月～２月）では回復傾向に転じています。

■町営駐車場利用台数の推移

単位：台

| | 中尊寺第１ | | | | | 中尊寺第２ | | | | | 毛越寺 | | | | | 計 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 大型 | マイクロ | 普通 | 自動二輪 | 小計 | 大型 | マイクロ | 普通 | 自動二輪 | 小計 | 大型 | マイクロ | 普通 | 自動二輪 | 小計 | 大型 | マイクロ | 普通 | 自動二輪 | 合計 |
| 平成２８年度 | 70 | 255 | 94,302 | 2,180 | 96,807 | 16 | 41 | 15,011 | 416 | 15,484 | 1,801 | 740 | 66,500 | 818 | 69,859 | 1,887 | 1,036 | 175,813 | 3,414 | 182,150 |
| 平成２９年度 | 112 | 249 | 93,449 | 2,172 | 95,982 | 5 | 26 | 14,595 | 455 | 15,081 | 1,494 | 671 | 67,274 | 757 | 70,196 | 1,611 | 946 | 175,318 | 3,384 | 181,259 |
| 平成３０年度 | 133 | 246 | 99,367 | 2,268 | 102,014 | 12 | 41 | 16,045 | 588 | 16,686 | 1,534 | 655 | 68,437 | 718 | 71,344 | 1,679 | 942 | 183,849 | 3,574 | 190,044 |
| 令和元年度 | 205 | 261 | 96,256 | 2,012 | 98,734 | 13 | 41 | 16,627 | 516 | 17,197 | 1,548 | 578 | 59,870 | 571 | 62,567 | 1,766 | 880 | 172,753 | 3,099 | 178,498 |
| 令和２年度 | 53 | 81 | 56,717 | 1,185 | 58,036 | 2 | 8 | 2,845 | 105 | 2,960 | 591 | 83 | 30,967 | 343 | 31,984 | 646 | 172 | 90,529 | 1,633 | 92,980 |
| 令和３年度 | 36 | 105 | 61,498 | 1,476 | 63,115 | | 1 | 2,456 | 47 | 2,504 | 724 | 94 | 31,371 | 322 | 32,511 | 760 | 200 | 95,325 | 1,845 | 98,130 |
| 令和４年度（２月まで） | 56 | 151 | 87,731 | 2,006 | 89,944 | 3 | 20 | 8,233 | 264 | 8,520 | 867 | 181 | 49,022 | 540 | 50,610 | 926 | 352 | 144,986 | 2,810 | 149,074 |

■町営駐車場利用台数（合計）の推移




## （9） その他の動向

### ① 平泉世界遺産ガイダンスセンター開設

岩手県立平泉世界遺産ガイダンスセンターが令和３年 11 月に開館しました。世界遺産をはじめとする「平泉の文化遺産」の価値を広く世界中に発信し、人類共通の財産として後世へ継承するための拠点となる施設です。

「平泉の文化遺産」の構成資産及び関連する遺跡の周遊の出発点として、その価値や特徴を分かりやすく紹介しています。

## ② 平泉スマートインターチェンジ開通

令和 3 年 12 月に供用を開始した平泉スマートインターチェンジは、本線直結型の ETC 専用のインターチェンジで、東北自動車道の一関インターチェンジから北に約 4.4Km、平泉前沢インターチェンジから南に約 7.1Km の位置に設置され、町中心部に近い町道祇園線に接続されており、近接に約 1,100 台駐車可能な無料駐車場が整備されました。

整備後は、ETC を搭載した全車種の東北自動車道への乗り降りが可能となり、次の整備効果が期待されます。

ⅰ）観光客の利便性向上による観光業の振興
ⅱ）観光期の渋滞緩和
ⅲ）物流の効率化による企業誘致の促進及び地域産業の活性化
ⅳ）居住者の利便性向上
ⅴ）世界文化遺産へのアクセス向上

## ③「束稲山麓地域の災害リスク分散型土地利用システム」が日本農業遺産に認定

平泉町長島地区と一関市舞川地区、奥州市生母地区にまたがる「束稲山麓地域の災害リスク分散型土地利用システム」が令和５年１月、農林水産省による日本農業遺産に認定されました。

このシステムは、山地のため池と水路、共有林を地域の共同組織が管理し土砂災害などのリスクに対応しており、個々の農家は低平地の水田と山麓地の畑の両方の地区に農地を分散所有しています。

これによって低平地が洪水被害を被っても山麓地の農地では生産を確保し、逆に山麓地が干ばつ被害のときは低農地で生産を確保するという自然災害へのリスク分散を図っているシステムとなっていて、社会や環境に適応しながら地域の食料や生計を保証してきたものです。

# 4　観光ニーズの状況

## （1） 町民意識

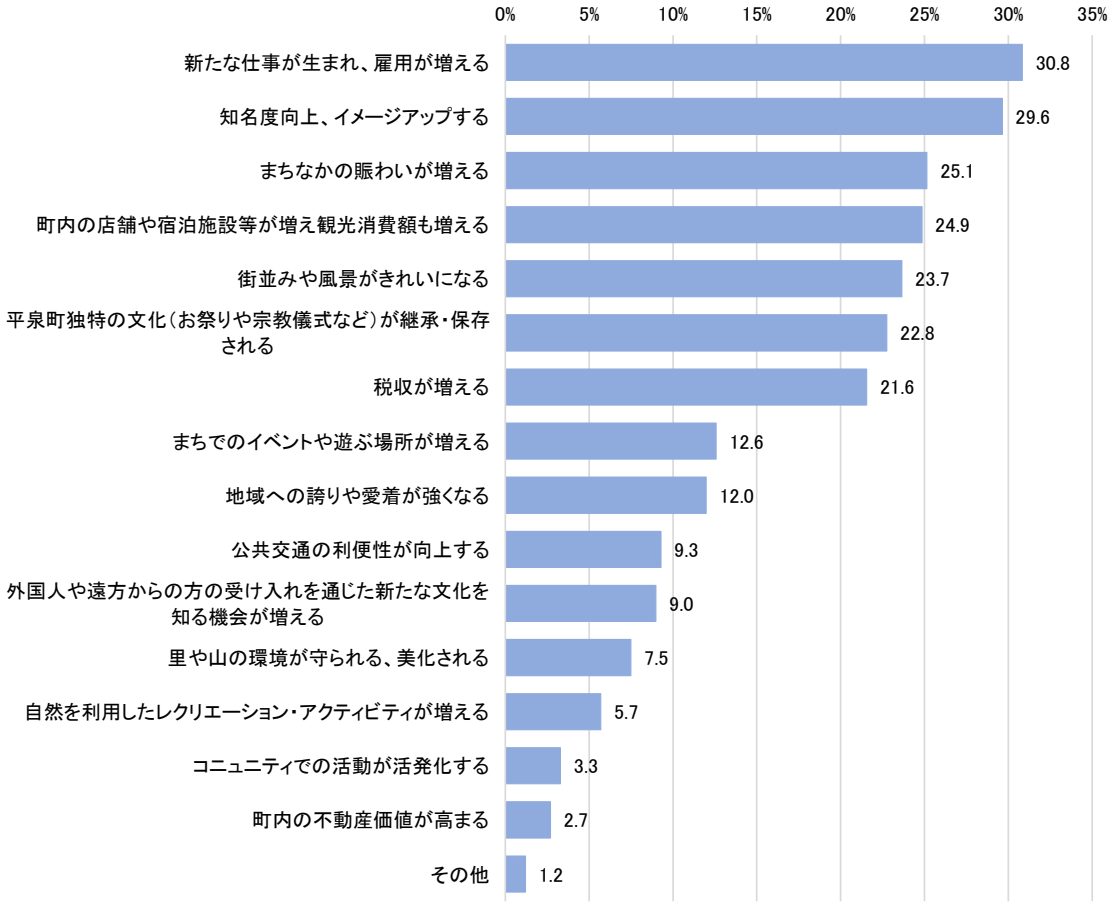
### ① 調査概要

- 調査時期：令和４年 12 月 26 日～令和５年１月 20 日
- 調査対象：満 16 歳以上の町民 1,000 人を無作為抽出
- 調査方法：郵送による配布・回収（※回答についてはウェブサイト上の入力併用）
- 回収状況：◇配布数　1,000 人
  ◇回収数　335 票
  ◇回収率　33.5%

### ② 調査結果

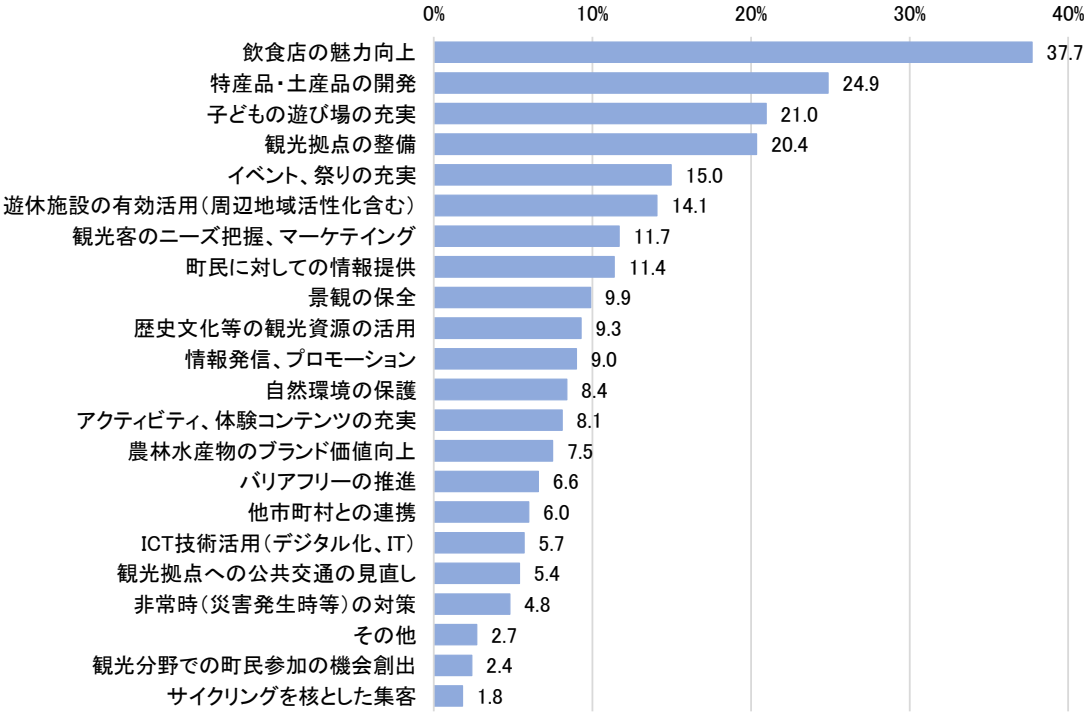
観光振興（観光客増加）で期待することは何ですか（複数回答）

「新たな仕事が生まれ、雇用が増える」が 30.8%で最も多く、次いで「知名度向上、イメージアップする」が 29.6%、「まちなかの賑わいが増える」が 25.1%、「町内の店舗や宿泊施設等が増え観光消費額も増える」が 24.9%、「街並みや風景がきれいになる」が 23.7%などが多くなっています。



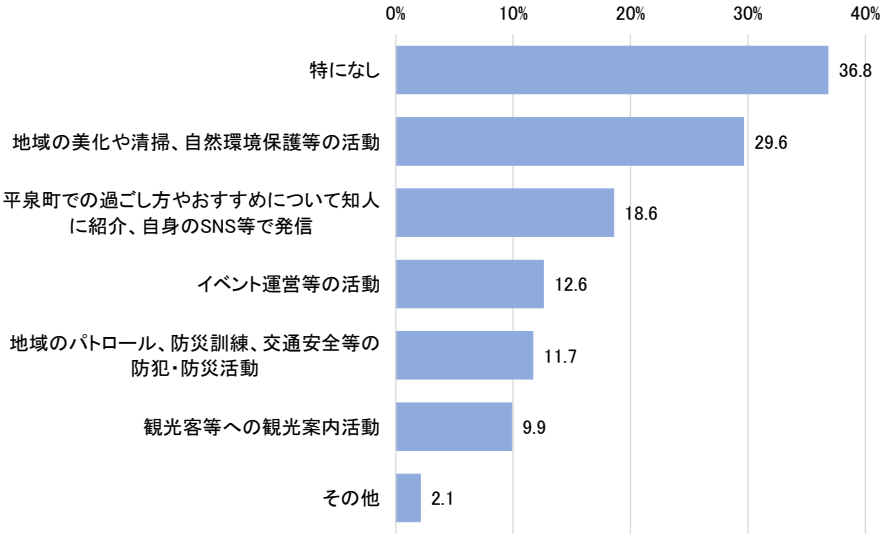
## 平泉町の観光振興として何が必要だと思いますか（複数回答）

「飲食店の魅力向上」が 37.7%で最も多くなっており、次いで「特産品・土産品の開発」（24.9%）、「子どもの遊び場の充実」（21.0%）、「観光拠点の整備」（20.4%）などが多くなっています。




## あなたは今後、平泉町の観光に関わることができそうですか（複数回答）

「特にない」とする回答が 36.8%と最も多いですが、次いで「地域の美化や清掃、自然環境保護等の活動」（29.6%）、「平泉町での過ごし方やおすすめについて知人に紹介、自身の SNS 等で発信」（18.6%）が多くなっています。



## （2） 来訪者ニーズ調査

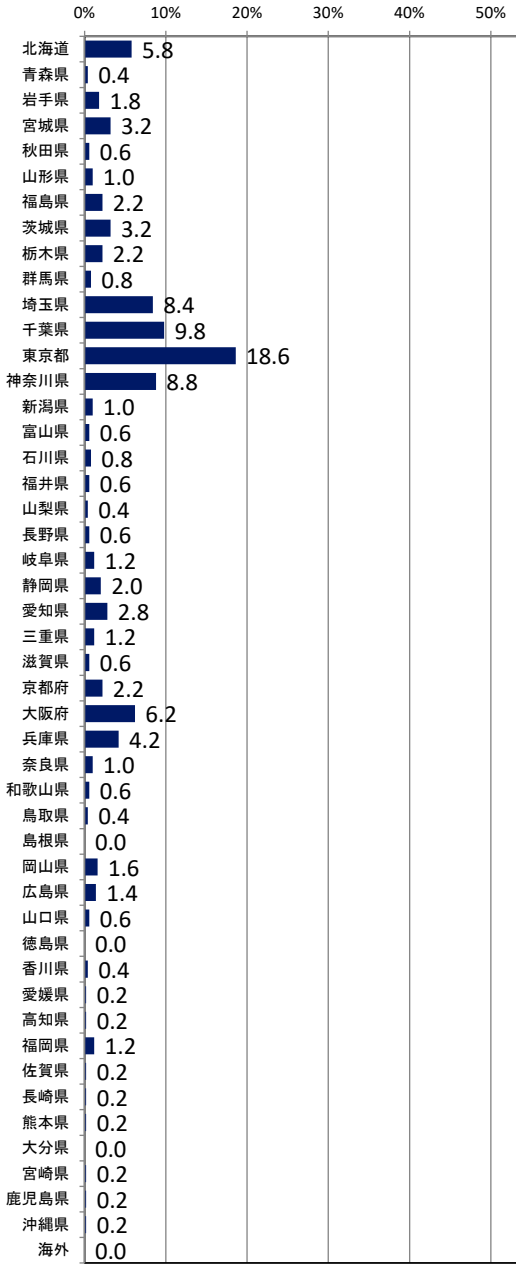
### ① 調査概要

- 調査時期：令和５年１月 19 日～1 月 20 日
- 調査対象：平泉町外にお住まいで平泉町に訪れたことのある満 16 歳以上の方
  500 人（web アンケート調査会社へのモニター登録者）
- 調査方法：web 上での配信・返信
- 回収状況： 500 人

### ② 調査結果

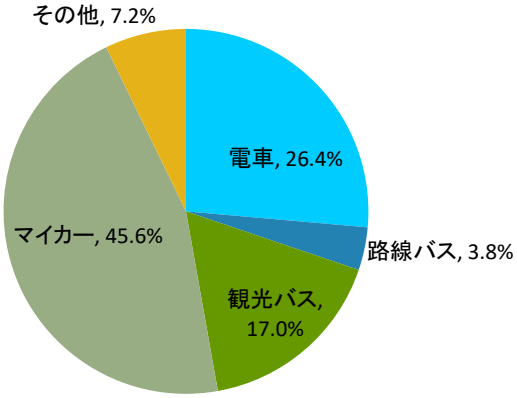
あなたのお住まいの地域をお答えください。

東京都を筆頭に関東圏をはじめとして、北海道や関西圏からも多く訪れています。



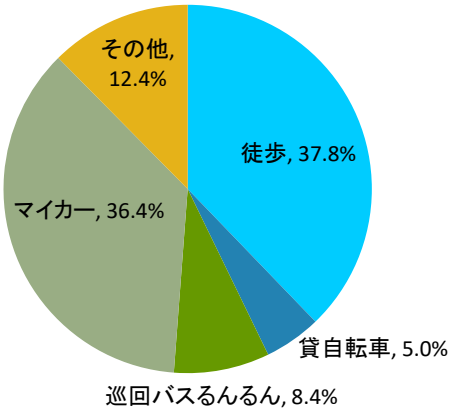
## 平泉町へはどのような交通手段で来訪しましたか。

「マイカー」での来訪が 45.6%と半分近くを占めており、次いで「電車」が 26.4%、「観光バス」が 17.0%となっています。




## 平泉町内での移動手段は何ですか。

「徒歩」での移動が 37.8%、「マイカー」での移動が 36.4%で、「巡回バスるんるん」は 8.4%となっています。

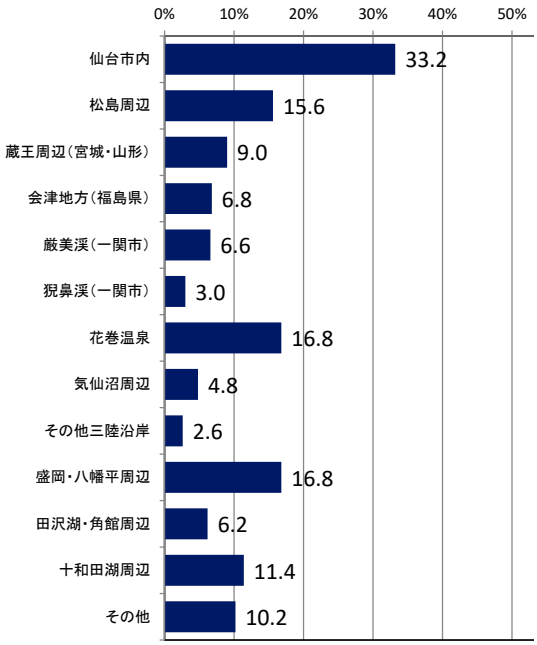



＜来訪年別＞

| | | 全体 | 徒歩 | 貸自転車 | 巡回バスるんるん | マイカー | その他 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 全体 | | 500 | 37.8 | 5.0 | 8.4 | 36.4 | 12.4 |
| 全体 | 2013～2019年 | 143 | 35.7 | 7.0 | 7.7 | 39.2 | 10.5 |
| | 2020～2023年 | 94 | 26.6 | 9.6 | 27.7 | 31.9 | 4.3 |
| | 2012年以前 | 263 | 43.0 | 2.3 | 1.9 | 36.5 | 16.3 |

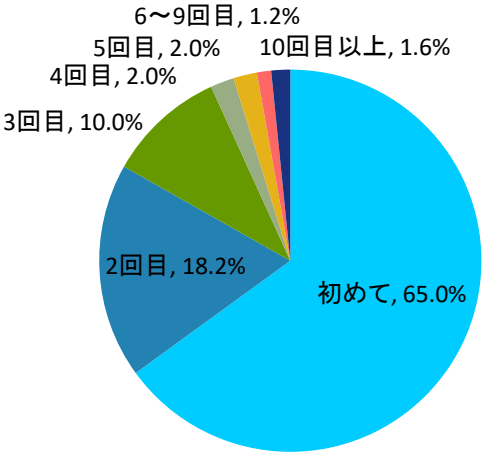
## 平泉町への旅行の際に、「宿泊した場所（観光地等）」について、あてはまるものをすべてお答えください。

「仙台市」が 33.2%と最も多く、次いで「花巻温泉」「盛岡・八幡平周辺」がともに 16.8%、「松島周辺」が 15.6%となっています。



## 直近の平泉町への訪問回数について、何度目だったのか教えてください。

「初めて」との回答が 65.0%と過半数を占めており、次いで「2 回目」(18.2%)、「3 回目」(10.0%)となっています。



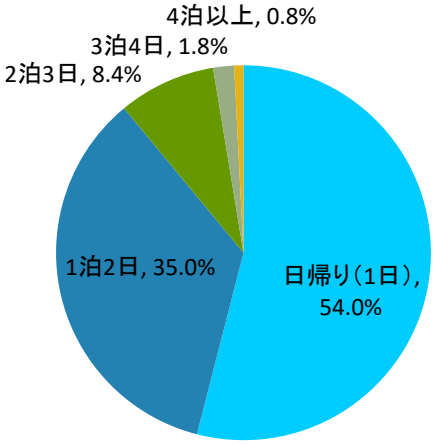

## 直近の平泉町への訪問の際の、平泉町での滞在時間を教えてください。

「日帰り」が 54.0%と過半数を占めており、次いで「1 泊 2 日」が 35.0%、「2 泊 3 日」が 8.4%となっています。

「日帰り」の方の平均滞在時間は 3.9 時間となっています。

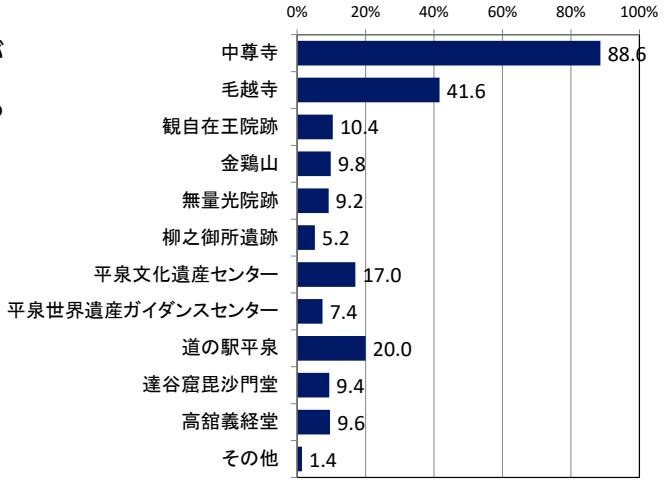
＜滞在時間＞　　単位：時間

| 平均 | 標準偏差 | 最小値 | 最大値 |
|---|---|---|---|
| 3.87 | 1.727 | 1 | 12 |




## 平泉町で訪れた行先についてあてはまるものをすべてお答えください。

「中尊寺」が 88.6%、「毛越寺」が 41.6%と多く、「道の駅平泉」が 20.0%となっています。




＜来訪年別＞

| | | 全体 | 中尊寺 | 毛越寺 | 観自在王院跡 | 金鶏山 | 無量光院跡 | 柳之御所遺跡 | 平泉文化遺産センター | 平泉世界遺産ガイダンスセンター | 道の駅平泉 | 達谷窟毘沙門堂 | 高舘義経堂 | その他 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 全体 | | 500 | 88.6 | 41.6 | 10.4 | 9.8 | 9.2 | 5.2 | 17.0 | 7.4 | 20.0 | 9.4 | 9.6 | 1.4 |
| 全体 | 2013～2019年 | 143 | 90.9 | 48.3 | 11.2 | 10.5 | 9.1 | 5.6 | 22.4 | 13.3 | 30.8 | 11.9 | 12.6 | 0.7 |
| | 2020～2023年 | 94 | 74.5 | 29.8 | 19.1 | 20.2 | 18.1 | 11.7 | 23.4 | 12.8 | 27.7 | 12.8 | 6.4 | - |
| | 2012年以前 | 263 | 92.4 | 42.2 | 6.8 | 5.7 | 6.1 | 2.7 | 11.8 | 2.3 | 11.4 | 6.8 | 9.1 | 2.3 |

あなたの「直近の平泉町の旅行」について、パック料金以外の１人あたりの支出金額を教えてください。
※平泉町内で支払った交通費、宿泊費、飲食費、買い物費、入場料などの合計額

町内での観光消費額は、平均で一人当たり 18,491 円となっています。

| | 観光消費額（円/人） |
|---|---|
| 平泉町内平均 | 18,491 |

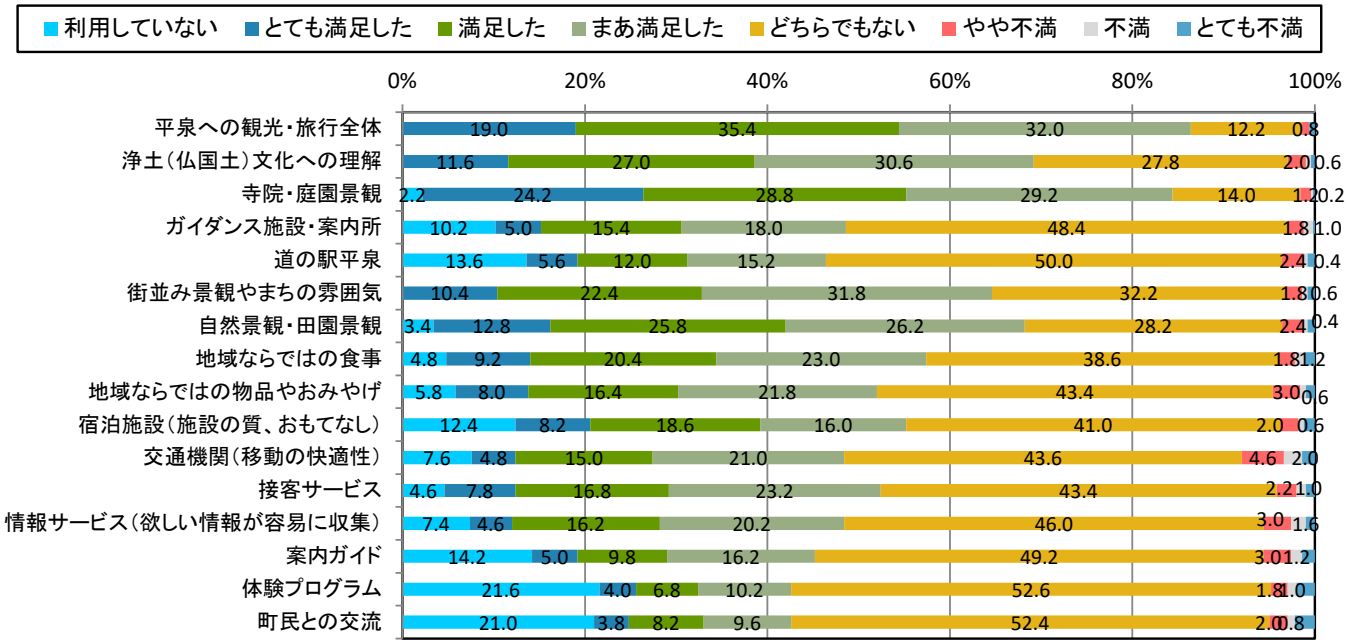
【参考：日本人国内旅行の１人１回当たり旅行支出（旅行単価）2022 年速報値】

| 区分 | 旅行支出（円/人） |
|---|---|
| 国内旅行全体 | 41,070 |
| 宿泊旅行 | 59,059 |
| 日帰り旅行 | 18,520 |

※「旅行・観光消費動向調査：観光庁」より

## 平泉町への旅行についての評価

「平泉への観光・旅行全体」では、「とても満足した」「満足した」を合わせると、54.4%の方が満足したとしています。



さらに、満足度設問の回答数を点数化し、別問の期待度についても同様に点数化した値と掛け合わせ、「期待度」×「満足度」の分布図を作成しました。

「期待度」と「満足度」が相対的に高かったのは「３寺院・庭園景観」、「１平泉への観光・旅行全体」「７自然景観・田園景観」「２浄土(仏国土)文化への理解」などとなっています。

一方、「期待度」も「満足度」も相対的に低かったのは「16 町民との交流」「15 体験プログラム」「14 案内ガイド」「11 交通機関（移動の快適性）」などとなっています。

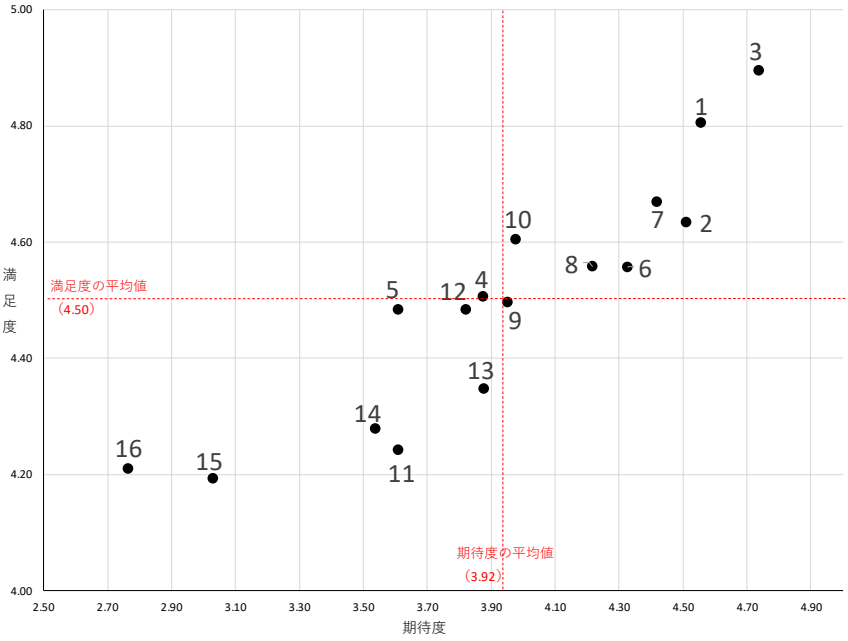
期待度・満足度について、分布図を作成するための点数化を行った。
回答選択肢 1（高い）から回答選択肢６（低い）まで、それぞれ 最高６点から最低１点を付与し、加重平均を算出した。
なお、回答選択肢の「どちらでもない」、「利用していない」（満足度のみ）の回答分は集計対象から除外。

$$\text{満足度点数} = \frac{[「とても期待」(票)\times 6点 + 「期待」(票)\times 5点 + 「まあ期待」(票)\times 4点 + 「あまり期待しない」(票)\times 3点 + 「期待しない」(票)\times 2点 + 「全く期待しない」(票)\times 1点]}{\text{回答総数（「どちらとも言えない」を除く）}}$$

$$\text{優先度点数} = \frac{[「とても満足」(票)\times 6点 + 「満足」(票)\times 5点 + 「まあ満足」(票)\times 4点 + 「やや不満」(票)\times 3点 + 「不満」(票)\times 2点 + 「とても不満」(票)\times 1点]}{\text{回答総数（「どちらでもない」「利用していない」を除く）}}$$

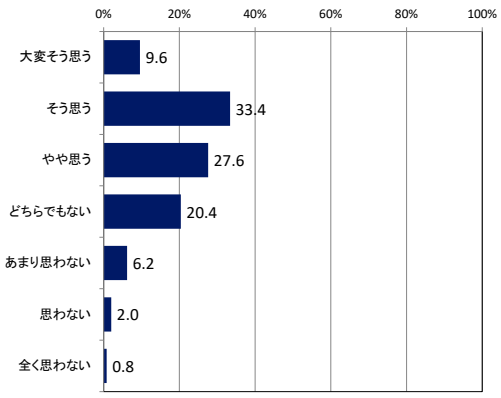
| 要素 | 得点 期待度得点 | 得点 満足度得点 |
|---|---|---|
| 1 平泉への観光・旅行全体 | 4.55 | 4.81 |
| 2 浄土（仏国土）文化への理解 | 4.51 | 4.63 |
| 3 寺院・庭園景観 | 4.74 | 4.89 |
| 4 ガイダンス施設・案内所 | 3.87 | 4.51 |
| 5 道の駅平泉 | 3.61 | 4.48 |
| 6 街並み景観やまちの雰囲気 | 4.33 | 4.56 |
| 7 自然景観・田園景観 | 4.42 | 4.67 |
| 8 地域ならではの食事 | 4.22 | 4.56 |
| 9 地域ならではの物品やおみやげ | 3.95 | 4.50 |
| 10 宿泊施設（施設の質、おもてなし） | 3.98 | 4.61 |
| 11 交通機関（移動の快適性） | 3.61 | 4.24 |
| 12 接客サービス | 3.82 | 4.48 |
| 13 情報サービス（欲しい情報が容易に収集 | 3.88 | 4.35 |
| 14 案内ガイド | 3.54 | 4.28 |
| 15 体験プログラム | 3.03 | 4.19 |
| 16 町民との交流 | 2.76 | 4.21 |
| 平均 | 3.92 | 4.50 |

【散布図】




## あなたは、また平泉町に来たいと思いますか。

「大変そう思う」（9.6%）、「そう思う」（33.4%）を合わせると、43.0%の方が、再来訪意向があります。



## 5　平泉町観光の課題

平泉町の観光を取り巻く周辺環境について、「内部環境⇔外部環境」と「プラス要因⇔マイナス要因」との２つの軸から、強み（Strength）、弱み（Weakness）、機会（Opportunity）、脅威（Threat）の４つの要素を以下のとおり整理します。

| | プラス要因 | マイナス要因 |
|---|---|---|
| 内部環境 | 【強み（Strength）】<br>・東北を代表する観光拠点として、知名度があり年間観光客数も多い。<br>・中尊寺や毛越寺をはじめとする世界遺産の史跡を有している。<br>・教育旅行の需要が多い。<br>・奥州藤原氏や源義経に代表される魅力ある歴史的背景・ストーリーがある。<br>・町内に県・町の観光ガイダンス施設が充実している。<br>・春・秋の藤原まつりやお寺の催事など、話題性・集客力の高いイベントがある。<br>・自然景観や隠れたスポットなどの歴史・文化・自然資源が豊富にある。<br>・束稲山や山麓の農地など変化に富んだ自然景観がある。<br>・「照井堰用水」が世界灌漑遺産に登録されている。<br>・束稲山麓地域が日本農業遺産に認定<br>・新幹線や高速道路など広域交通条件に恵まれている。<br>・平泉スマートインターチェンジ開通<br>・自治体間広域連携の進展<br>・DMO 設立により、民間レベルでのマネジメント機能が始動<br>・ふるさと納税者による関係人口の増加<br>・町民の観光客受入れ・観光振興に対する意向は比較的に肯定的<br>・来訪者の 54.4%が満足し、43.0%が再訪意向 | 【弱み（Weakness）】<br>・担い手不足等により宿泊施設や飲食店などのおもてなし機能の再構築<br>・空き家・空き店舗が多く、まち並みや賑わいに欠ける。<br>・体験コンテンツが少ない。<br>・特に、冬季の誘客につながる観光コンテンツが弱く、観光入込数が少ない。<br>・観光関連事業者が限定的で観光消費額につながりにくい。<br>・中尊寺（89%）・毛越寺（42%）以外への回遊性が弱い。（道の駅平泉 20%）<br>・観光客の 54%が日帰りで滞在時間平均は 3.9 時間<br>・パック料金以外の平泉での平均消費額は 18,491 円/人<br>・平泉ファンを増やす取り組みが少ない。 |
| 外部環境 | 【機会（Opportunity）】<br>・コロナ禍後のインバウンド需要増<br>・コト消費などの体験型、高価格帯の国内旅行需要増（量より質、モノより時間、体験 ）<br>・女性や高齢者の消費活発化<br>・国の「地方創生」「観光立国」の政策の流れ（観光 DX、SDGs など、新しい政策課題への対応）<br>・ＳＮＳなど個人からの情報ネットワー クの成熟 | 【脅威（Threat）】<br>・新型コロナウイルス感染症に代表される感染症への対応<br>・頻発する災害への備え・対応<br>・人口減少と高齢化 |

前述の４つの要素を掛け合わせて、「強み×機会」「強み×脅威」「弱み×機会」「弱み×脅威」の４象限から、平泉町の対応課題を以下のとおり整理します。

| | 強み（Strength） | 弱み（Weakness） |
|---|---|---|
| 機会（Opportunity） | 「強み×機会」<br>平泉の特徴である平安時代からの“物語（浄土の理想郷づくり）”をモチーフとしたテーマ性をより強化し、モノ消費からコト消費へ転換を図りながら、体験需要への訴求力を高めていくことが望まれます。 | 「弱み×機会」<br>担い手の育成や起業支援などを通じて、おもてなしの一翼を担う地域商業機能の活性化を図り、経済循環の仕組みづくりにより観光産業の安定化を図ることが求められます。 |
| 脅威（Threat） | 「強み×脅威」<br>観光モニタリング機能の充実により、多様な需要を把握しながら、先人が大切に護り伝えてきた文化や歴史、自然等の地域資源を効果的に活用した魅力あるコンテンツの提供による競争力の強化が必要です。 | 「弱み×脅威」<br>持続可能な観光地づくりに向けて、観光協会や DMO、商工会等の観光関連団体のほか、町内外からの多様な人材の参画を得て、観光を総合的にマネジメントしながら、来訪者の満足度を高めるような受入態勢を整えることが望まれます。 |

課題１　平泉の特徴である平安時代からの“物語（浄土の理想郷づくり）”をモチーフとしたテーマ性をより強化し、モノ消費からコト消費へ転換を図りながら、体験需要への訴求力を高めていくことが求められます。

本町の大きな特徴である平和・平等の理想郷を目指した「浄土」をモチーフにして、地域全体の統一テーマ性をこれまで以上に前面に打ち出して、地域イメージ形成につなげていくことが求められます。

教育旅行が多いことも背景に、SDGs などの社会的背景を踏まえつつ、これまで足を伸ばすことが少なかった場所にも関連するストーリーやプログラムを充実させることにより、滞在時間を延長することが求められます。

課題２　観光モニタリング機能の充実により多様な需要を把握しながら、先人が大切に護り伝えてきた文化や歴史、自然等の地域資源を効果的に活用した魅力あるコンテンツの提供による競争力の強化が求められます。

文化や歴史、自然環境など多様な資源を活用しながら、本町ならではの魅力あるコンテンツの充実が求められます。

そのためには、観光客の属性ごとの行動調査や観光マーケティング等により需要をしっかりと見極めたサービスやコンテンツの造成が必要です。

課題３　担い手の育成や起業支援などを通じて、おもてなしの一翼を担う地域商業機能の活性化を図り、経済循環の仕組みづくりにより観光産業の安定化を図ることが求められます。

担い手の不足が深刻な飲食店や土産品店等について、町内外から意欲のある人材を求め、起業を支援するとともに、空き家や空き店舗の活用を含めて、魅力ある地域商業機能の活性化を図ることで、安定的な観光関連産業の育成につなげることが求められます。

課題４　持続可能な観光地づくりに向けて、観光協会や DMO、商工会等の観光関連団体のほか、町内外からの多様な人材の参画を得て、観光を総合的にマネジメントしながら、来訪者の満足度を高めるような受入態勢を整えることが求められます。

観光関連団体のみならず、町民や関係人口も含めた参画を得ながら、観光客の満足度を高めるための飲食等のおもてなしを含めた受入態勢の強化が求められます。

これまでの他の観光地との広域的な連携をより一層強めながら、観光客の移動利便性や安心・安全など、観光を取り巻く環境の整備を整えていくことが求められます。

# 第2章　観光振興ビジョン

## 1　観光振興の目標

### （1）観光振興の目標

平泉観光の中心は、世界遺産の構成資産をはじめとする寺院や庭園などであり、これらは、古の人々が浄土思想に基づく平和や平等の理想世界をこの世に具現化することを願い築造したものです。

その意味において、平泉観光は寺院や庭園などの美しい風景に感動するだけではなく、今を生きる私たち現代人が 900 年の時を超えて平泉の普遍的価値を再確認できるという、他に類を見ない特徴を有しています。

さらには、平安時代から護り伝えてきた中尊寺金色堂が、令和６年（2024 年）に建立 900 年を迎え、令和８年（2026 年）には、中尊寺落慶供養　900 年と節目の年を迎えるなど、改めて平泉の文化遺産の理念と価値を再認識しながら、この貴重な文化遺産を背景としたまちづくりや観光振興が求められています。

また、平泉は、中尊寺の御神事能（ごじんじのう）や毛越寺の延年の舞などの宗教儀礼や民俗芸能を継承し、さらに束稲山麓では、ため池や水路、共有林を地域共同で管理し災害に備えてきたことなど、浄土思想を受け継ぎ伝える中で、自然を尊び、技術や心を次代に継承しながら、悠久の時を越えて地域独自の文化やアイデンティティを培ってきました。

こうした 平泉独自のサスティナビリティ（持続可能性）は、子どもたちへの“平泉学”などを通じて将来に向けて受け継がれています。

町民が自らの地域の価値を再確認し、その担い手であるという自負の心や郷土への愛着を強めるとともに、町外から観光で訪れる多くの人々が平泉の浄土思想に対する印象をより強く抱き日々の暮らしに活かしていくこと、このことを観光振興の基本的な目標に据えます。

さらには、担い手の減少が課題となっている本町において、観光客が町民と交流する機会を充実させることで平泉のファンとなり関係人口として何らかのかたちで地域に関与すること、その先には「住んでみたい」という想いから定住へと発展させるなど、まちの持続的発展の力を増幅させていくことを観光振興の究極の目標に据えます。

## （2） 将来の姿

「第６次平泉町総合計画」では、まちの将来像を「輝きつむぐ理想郷　ーいにしえの歴史と希望ある未来、そして人を育むまちー」としています。

そしてここには、「観光と交流を通じて人と人との結びつきが生まれ、その絆が“輝き”」という想いも込められています。

平泉町で観光を振興することにより「まちの持続的発展の力を増幅」させることで、世界中から浄土の世界観を体感するために多くの人々が訪れ、受入側の担い手によるきめ細かなおもてなしにより、引いては平泉に住みたいという人が増えていく、そういうまちを目指します。

〇浄土の精神世界を体感するために世界中から人々が訪れ学ぶまち

〇担い手が育ち来訪者へのサービスが行き届く持続可能なまち

〇まちに誇りを持つ住民と来訪者との交流を通じて定住を促進するまち

## （3） 基本目標指標

目指すべき「将来の姿」への到達度を検証するための基本的な目標指標と計画最終年の目標値を以下のとおり設定します。

| 基本目標指標 | 令和４年<br>（暦年） | 令和９年<br>（暦年） |
|---|---|---|
| 観光客入込数（人） | 1,370,433 | 2,200,000 |
| 外国人観光客入込客数（人） | 3,458 | 70,000 |
| 宿泊客数（人） | 29,803 | 50,000 |
| 来訪者満足度（%） | 54.4 | 70.0 |
| 平均滞在時間（時間） | 3.9 | 4.5 |
| 平均観光消費額（円/人） | 18,491 | 20,000 |

## ２　基本方針

観光振興の目標と将来の姿を実現するために、以下の方針のもと取り組みます。

### 基本方針１　平泉の本質的価値の発信強化による訴求力の向上

国内外に向けて平泉の歴史・文化・風土・観光に関する情報を的確に伝えるプロモーションツールの充実、定常的に更新を図り新鮮な情報発信に取り組むとともに、来訪者に対する平泉の歴史・文化・自然などを体系的かつ効果的に伝える取り組みを推進します。

また、教育旅行の受入態勢をより強化するとともに、SDGs など時代のニーズに応じた教育コンテンツを充実し、誘客のすそ野を広げることに取り組み、平泉文化への理解促進と普及啓発を図ります。

### 基本方針２　多様な地域資源を活用した魅力あるコンテンツの提供

従来の観光コンテンツの展開を土台としながら、本町を取り巻く社会情勢に合った新しい観光メニューの構築と魅力化に取り組みます。

中尊寺や毛越寺に代表される観光スポットのほかに、まち全体でおもてなしをするための必要なサービス機能の充実を推進します。

### 基本方針３　観光を支える基盤づくり

観光満足度を高めるために、飲食や土産品等の充実や特産品のブランド化を推進します。

平泉の歴史や文化、自然の風情を感じられるよう、空き家や空き店舗の活用等によりまち並み形成に取り組みます。

小規模な宿泊施設が多いことから、きめ細かなおもてなしやニーズに柔軟に対応する旅行商品により差別化を進めます。

平泉スマートインターチェンジの供用に伴う観光客の新たな移動経路に合わせて、二次交通やまち歩きのためのサポートを強化するとともに、広域的な移動手段の検討を進めます。

## 基本方針４　観光の総合的マネジメントと受入態勢の整備

持続的な観光地域づくりを支えるための人材育成や関連団体の連携を進めるとともに、多文化共生等の外国文化の理解促進を図ります。

「観光地経営」の観点から、マーケティング調査に基づく取り組みの検証や改善、デジタル技術の導入等による効率化を図り、観光客の「満足度」を高めながら「稼ぐ観光地」づくりを進めるためのマネジメント体制を整えます。

引き続き、近隣市町村との連携強化と共通テーマやコンセプトのもと、広域観光連携を推進します。

無量光院跡

# 第3章　観光振興プラン

## 1　基本方針１　平泉の本質的価値の発信強化による訴求力の向上

### （1）　浄土思想に基づく平和・平等精神の発信強化

#### ①　平泉 900 年事業の展開【新規／重点】

令和６年（2024 年）に中尊寺金色堂建立 900 年、令和８年（2026 年）に中尊寺落慶供養 900 年、令和９年（2027 年）に初代藤原清衡公御遠忌と、平泉にとって節目の年を迎えることから、平泉文化の継承と理念の普及を図るため、平泉観光推進実行委員会を中心に 900 年記念事業を軸とした情報発信と観光振興を推進します。

#### ②　ガイダンス施設の活用促進【新規／重点】

平泉文化遺産センターや平泉世界遺産ガイダンスセンターは、平泉の歴史・文化・自然を体系的に学ぶことができ、平泉観光に際して来訪者が最初に訪れることにより充実した周遊観光につながる施設となっていますが、利用する観光客は限られている状況です。

平泉に来訪する交通手段は、電車やマイカー、観光バスなど様々ですが、いずれの場合でも、これらのガイダンス施設が平泉観光の出発点になるよう、施設の周知・案内などのあり方を工夫します。

#### ③　観光ガイドの維持・育成

平泉町観光ガイド事務所や古都ひらいずみガイドの会のガイド数を維持するとともに、スキル向上のための人材育成を推進します。また、外国人観光客に対応するため、外国語対応ガイドの増加に向けた基盤強化、通訳案内士の育成を支援します。

#### ④　観光プロモーションツールの充実と情報発信

世界遺産平泉の思想や理念について、様々なツールを用いながら“平和”や“平等”などの世界に通じる平泉ならではの普遍的な価値観を的確に伝えられる情報発信を行います。

魅力的な観光ポスターの作成、パンフレットの更新、ホームページ等の Web サイトや SNS の活用による情報発信など、多様な情報媒体を活用して国内外の観光客に向けたプロモーションツールの充実を図ります。

イベントや観光情報については、テレビや FM ラジオ、新聞などのマスメディアを有効に活用するとともに、町や観光協会で SNS を活用した情報発信を積極的に行い、集客力を高めていきます。

### ⑤ 「平泉学」の普及促進

町内の幼稚園・保育所・小学校・中学校では、平泉文化を系統的に学ぶ「平泉学」への取り組みを行い、首都圏や仙台での修学旅行の際に観光ＰＲ活動を行うとともに、町内を訪れる観光客へのガイド体験を実施していることから、町民が進める観光案内などの口コミ情報等を含め、町民が主体となったＰＲ活動を推進します。

## （2） 教育旅行の推進

### ① 教育旅行の誘致・受入【重点】

県外からの教育旅行は、東日本大震災発生時に減少したものの、平成 24 年度以降は増加傾向にあり、コロナ禍においては教育旅行先の方面変更により近県からの来訪や新規訪問校も増えています。

引き続き、岩手県観光協会等が主催する教育旅行誘致説明会への参加や、本町独自の取り組みである北海道や関東・首都圏をターゲットとした教育旅行誘致キャラバン活動など、関係団体と連携しながら教育旅行の継続的な受入れに向けた誘致活動を推進します。

### ② 教育旅行メニューの充実【重点】

平泉における教育旅行の中核となる中尊寺・毛越寺での坐禅、写経、法話などの体験や、農家民泊や農業体験などのプログラムを継続的に実施するとともに、まちなかに点在する遺跡やガイダンス施設の回遊、伝統工芸品や郷土料理を活用した体験、自然フィールドを活用したアクティブメニューなど、魅力的な教育旅行コンテンツの充実を図ります。

また、持続可能な地域社会づくりの教育的観点から作成された SDGs ワークブックの活用により、SDGs で学ぶ世界遺産平泉プログラムの普及を図ります。

### ③ 社会教育施設の活用

令和 4 年 7 月にオープンした平泉町学習交流施設エピカは、公民館、図書館、子育て支援機能、多目的ホール機能を備えた複合施設であり、町民の学習・交流拠点となっています。

この施設はまちの中心部にあり観光客も立ち寄りやすいことから、この施設を活用したイベントなどを展開することで、町民と観光客の交流を促進します。

**＜平泉の本質的価値の発信強化による訴求力の向上の成果指標（KPI）＞**

| 成果指標 | 令和４年（暦年） | 令和９年（暦年） | 概要 |
|---|---|---|---|
| 観光プロモーション情報発信ツール数 | ３ | ５ | 既存の情報発信媒体に加えデジタルツール等の新たなツールの活用 |

| 成果指標 | 令和４年（暦年） | 令和９年（暦年） | 概要 |
|---|---|---|---|
| 教育旅行学習プログラム数 | ９ | 11 | 坐禅や写経体験、伝統工芸体験、農村体験のほか、新たな教育旅行体験プログラムの構築 |

毛越寺曲水の宴

## ２　基本方針２　多様な地域資源を活用した魅力あるコンテンツの提供

### （１）体験プログラムの充実

#### ① 世界遺産の社寺・仏閣による新たな体験プログラムの展開

世界遺産を有する平泉地区では、中尊寺、毛越寺を始めとして多くの観光客が来訪しており、現在は社寺の拝観に加え、坐禅・写経・法話などの体験や「四寺廻廊」などの御朱印集めのほか、境内の風景やお堂など写真映えするものを撮影し SNS に投稿するといった多様なニーズが顕在化しています。

観光客のニーズを踏まえつつ、早朝坐禅、ライトアップ、講演会、書道展、絵画展など、宗教活動以外の新たな体験プログラムの展開や PR を図ります。

#### ② 四季を通じた体験プログラムの開発【重点】

四季折々の自然景観スポット、それらを巡るウォーキングコース、大文字展望台からの眺望（夕日や黄金色の田んぼ）のほか、自然景観や農村風景など潜在的観光資源の魅力を掘り起します。

また、既存の資源の中で四季を感じられる体験（浴衣のまち歩きなど）プログラムを開発することで、通年型の観光地をめざし、観光資源等を PR しながら、新たな観光客の誘客を目指します。

#### ③ 宿泊交流体験施設の活用

既存の仏教体験、農業体験、伝統工芸体験の認知拡大に加え、宿泊交流体験施設「浄土の館」を活用した体験メニューの充実とともに、広域的な情報発信を行います。

#### ④ ウォーキングトレイル・ルートを活用した体験プログラムの展開

本町には平泉ウォーキングトレイルと西行桜の森のウォーキングルートの回遊性のある資源があり、町が目指す体験・回遊・交流による滞在型観光の振興に資するため、平成 31 年 3 月に「平泉町ウォーキングトレイル魅力化計画」を策定したところです。当該計画に沿って施設整備やガイド人材の養成、情報発信、季節ごとのイベント実施、安全対策等の維持管理を実施します。

### ⑤ グリーン・ツーリズムの推進（農泊・農業体験）

グリーン・ツーリズムの受入農家数の減少、高齢化や家族内での考え方の多様化などにより、農家の負担は大きくなっており、特に農作業と宿泊をセットとして受け入れるのが難しい状況にあります。また農繁期・農閑期の受け入れが困難な反面、教育旅行の件数は近年増加傾向にあり、そのニーズは高まりつつあります。

グリーン・ツーリズムのさらなる展開として、農家の負担が少なく、持続可能な展開が図れる仕組みの構築や、教育旅行・一般観光客・外国人観光客への受け入れに向け、利用者のニーズと農家の受け入れをマッチングさせる仕組みにより、「農業×観光」による地域の活性化を図っていきます。

### ⑥ 東稲山麓地域の活用【新規／重点】

令和 5 年１月に日本農業遺産に認定された東稲山麓地域は、自然と共生しながら暮らしを営んできた先人の知恵や努力を背景に、地域の人々の歴史や文化・風土が育まれ、また、国指定名勝のさくら山をはじめ、自然景観にめぐまれた地域でもあります。

こうした日本農業遺産に認定された資源としての活用を進めていくため、桜情景復活事業との連携を図るとともに、西行桜の森での体験メニューの構築を検討します。

### ⑦ 生活文化体験の推進【新規】

郷土料理や風習など先人から受け継がれてきた平泉の生活文化を発掘し、これらを活用して主に外国人観光客などを対象に SAVOR JAPAN（農泊 食文化海外発信地域）の取り組みなどと連携しながら、国内外から訪れる観光客と交流ができる仕組みを検討します。

## （2） 観光メニューの充実

### ① 中尊寺通り・毛越寺通り・平泉駅前の賑わい創出【重点】

平泉の滞在・回遊型観光を推進するため、中尊寺通りや毛越寺通り、平泉駅前を中心に、町内の観光・商工関係者やまちづくり団体などによる町民と観光客が交流できる賑わい創出事業の充実を図ります。

## ② 観光関連事業者等が一体となったまち歩きの推進【重点】

町内の飲食店、土産店、交通事業者、観光施設など、観光関連事業者と行政が連携しながら、飲食店や土産店、観光施設などの利用促進を図る企画事業を展開するとともに、早朝坐禅、ライトアップと連携した朝食堂・夕食堂の展開など周遊促進と消費拡大を促す仕組みを構築することで、観光による地域経済への波及効果を高めることを目指します。

## ③ 平泉スマートインターチェンジ周辺の土地活用【重点】

令和 3 年 12 月に平泉スマートインターチェンジが供用開始され、隣接して大型駐車場も整備されたことから、この交通利便性を活かした新たな商業施設や宿泊施設等誘致への期待も高まっており、引き続き観光資源としての活用の方向性について検討を進めます。

## ④ エクスカーションによる観光客の誘客

仙台市や盛岡市など周辺都市で開催される国際会議等を機会ととらえ、訪れた関係者を平泉に招き、自然や歴史、文化など地域の様々なテーマについて理解を深めていただく「体験型見学会」を開催するなど、エクスカーションによる誘客について検討します。

## ⑤ 国際化に対応したまちづくり

観光パンフレットやホームページ、まちなかの案内板等については多言語化を推進し、観光案内所や役場の窓口、観光関連施設、観光交通等における外国人への対応の充実を図るなど、外国人観光客が訪れやすい環境づくりを目指します。

特に、日本政府観光局（JNTO）のカテゴリー２に登録されている「平泉観光案内所」を中心に、主要なマーケットである「台湾」、「タイ」、「中国」からの観光客に対応し、外国語の支援講座や翻訳支援について推進することに加え、国際交流員による観光客への案内、商店への対応指導なども推進します。

また、外国人観光客からのニーズが高い Free Wi-Fi や海外キャッシュカード・クレジットカードの使用については、商工会や民間事業者と連携し、環境整備を検討します。

**＜多様な地域資源を活用した魅力あるコンテンツの提供の成果指標（KPI）＞**

| 成果指標 | 令和４年（暦年） | 令和９年（暦年） | 概要 |
|---|---|---|---|
| 地域資源を活用した体験プログラム数 | ３ | ５ | 地域で体験できる魅力ある資源の掘り起こし |

| 成果指標 | 令和４年（暦年） | 令和９年（暦年） | 概要 |
|---|---|---|---|
| 事業者主体の賑わい創出事業数 | ２ | ３ | 中心街路の賑わいを創出するイベント等の開催 |

中尊寺金色堂新覆堂

## ３　基本方針３　観光を支える基盤づくり

### （１）観光×商工×農業の取り組み

#### ① 中尊寺通り･毛越寺通り･平泉駅前を核とした滞在型観光の推進【重点】

平泉の玄関口であるJR平泉駅周辺や中尊寺通り、毛越寺通りは、沿道の商店が少なく空き家・空き店舗もあるなど、観光客へのサービス提供や景観の印象面で課題となっています。

そのため、中尊寺通り・毛越寺通り・平泉駅周辺において、空き家等の活用による飲食・物販・休憩のための交流施設の立地を促進するとともに、平泉らしいまち並みの形成を図りながら、観光客がゆっくり滞在できるまちづくりを推進します。

#### ② ニーズに応じたきめ細かな宿泊サービスの展開【新規】

近年、本町への宿泊客は個人旅行者が増加しており、観光ニーズも多様化している中で、個別的な観光客のニーズ把握とよりきめ細かなサービス提供が求められています。

また、インバウンド観光客に対する外国語対応のほか、個々の利用客への観光情報の案内や各種手配などのサービスを通じて、人と人とのつながりを大切にする地域ぐるみでのおもてなしに取り組み、平泉ファンを増やしながらリピーターの確保を推進します。

#### ③ 道の駅の農作物販売・強化

地元農家の野菜生産の促進、ニーズの高い品種の生産などの働きかけを進め、農産物の販売強化と町内農家への経済波及を図ります。

また、販売した農作物を活用した料理メニューの開発・提供など、域内で循環する仕組みの構築を図り、農家のみならず周辺住民も含めた参画と交流の機会を促進します。

#### ④ 既存特産品のブランド力の強化・新商品開発の促進

商工会の「平泉ブランド認証商品事業」により、平泉ブランドとしての登録・販売促進が推進されており、道の駅平泉においては、「平泉からし肉まん」や「どぶろく一音」、「束稲山麓ワイン」などの特色ある商品の販売が展開されています。

しかしながら、特産品としての認知度がまだ低いことから、商品のブラッシュアップと販路拡大のためのPRを行うとともに、平泉ならではの新たな商品開発を進めながら、特産品のブランド力強化と販売の促進を図ります。

## （2） 景観の保全とまち並み形成

### ① 景観形成・土地利用の促進【重点】

本町は、平泉文化を培った自然景観と、奥州藤原氏が築造した寺院などの遺跡群によって形成される文化的景観に大きな特徴があります。

町では、この景観をいかし、庭園文化都市としての調和が保たれたまとまりのある土地利用やまち並みを目指して、これまでも「平泉の自然と歴史を生かしたまちづくり景観条例」（平成 20 年 12 月制定）や「平泉町屋外広告物条例」（平成 21 年 12 月制定）などの条例や計画などに基づき景観の維持・保全を進めてきました。

しかし、近年は人口減少や少子高齢化などの影響もあり、まちなかの空き家や空き地、空き店舗などが増加傾向にあり、地域固有の文化的景観を阻害する要因にもなってきていることから、引き続き土地建物所有者の意向を踏まえながら、平泉らしい景観形成や土地利用を促進します。

### ② 空き家・空き店舗の活用支援【重点】

空き家や空き店舗に対して、「空き店舗対策補助事業」、「店舗リフォーム補助事業」等を活用した起業の支援などにより、観光客の利便性向上につながる店舗等の立地を誘導し、まちの賑わい創出を図ります。

## （3） 回遊型まちづくりの推進

### ① 二次交通の充実

平泉スマートインターチェンジ供用開始に伴う観光客の新たな移動経路を踏まえた、平泉巡回バスるんるんのルートや運行時間、レンタサイクルステーションの設置など、適切な町内観光周遊の二次交通のあり方と、隣接する一関市や奥州市の観光施設への観光客の移動を支える二次交通手段のあり方について検討します。

### ② まち歩き環境の整備【新規】

観光客が安心して快適にまち歩きができるよう、ルート上の案内看板を充実するとともに、スマートフォンを活用した観光情報の提供のほか、AR、VR 等のデジタル技術を用いた、エンターテイメント性のある周遊観光コンテンツの作成を推進します。

**＜観光を支える基盤づくりの成果指標（KPI）＞**

| 成果指標 | 令和４年（暦年） | 令和９年（暦年） | 概要 |
|---|---|---|---|
| 「空き店舗対策補助事業」、「店舗リフォーム補助事業」の活用数 | ３ | ４ | 新規開業店舗や観光客の利便性を考慮した店舗リフォームなどへの支援 |

高館からの眺望（北上川と東稲山）

## ４　基本方針４　観光の総合的マネジメントと受入体制の整備

### （１）観光人材の育成

#### ①　Ｉターン等の受け入れによる人材育成【重点】

本町では、空き店舗の利用促進やまちの賑わいづくりのため、町内の空き店舗に出店する事業者を支援する「空き店舗対策補助事業」を展開しています。引き続き、空き店舗の活用によるにぎわい創出のため、Ｉターン等により新規に開業を目指す人材の育成支援を推進します。

#### ②　「平泉学」を土台としたおもてなしの心の醸成【重点】

町内の幼稚園・保育所・小学校・中学校では、郷土の歴史や世界遺産を系統立てて学ぶ「平泉学」に取り組んでおり、まちの情報発信の担い手となる人材の育成を図りながら、郷土学習と観光を結びつけた取り組みを行います。

また、一般成人・高齢者には歴史教室などの講座を開設し、奥州藤原文化を中心とした平泉の歴史や文化を学ぶ“平泉学”に取り組んでおり、引き続き“平泉学”を通じて、まちを訪れる観光客へのおもてなしの心を醸成していきます。

#### ③　ホスピタリティの向上と多文化共生事業の推進

観光客に接する機会の多い観光関係者をはじめ、商店や交通関係者に対して研修会等を実施し、観光客のおもてなしに係る満足度の向上のほか、接客や情報提供などを通じて高齢者や体の不自由な方がより安全で快適な旅行ができる環境を整備しながら、「心のバリアフリー※」に努めるなど、ホスピタリティの向上を図ります。また、町の国際交流員を活用し、町民の外国人文化の理解促進を図りながら、多文化共生事業の推進を図ります。

※　国では「心のバリアフリー認定制度」を設け、観光施設における「心のバリアフリー」を推進しています。

## （2） マネジメント等体制整備・実践

### ① 観光モニタリングの実施

駅などの交通結節点や観光施設、宿泊施設等において、観光客向けに平泉観光への評価や新たな観光需要などの把握のためのアンケート調査を定期的に実施し、観光魅力の恒常的な向上に役立てます。

また、世界遺産平泉・一関ＤＭＯと連携したマーケティング調査、地域住民、地域の観光事業者に対するモニタリング調査を実施し、取り組みの改善を図ります。

### ② 体系的な観光推進のための体制運営

体系的な観光振興の推進にあたっては、合理的なマネジメントや合意形成を図りながら、地域ぐるみでおもてなしを行う体制が必要となることから、町民、観光協会・商工会、観光関連団体・事業者と町からなる「平泉観光推進実行委員会」において、引き続き日常的な課題への対応を検討、実施していきます。

また、観光客のニーズに対応する窓口として、平泉観光案内所や平泉駅なか案内所のほか、町内の観光拠点における観光案内機能の最適化を図ります。

### ③ 世界遺産平泉・一関ＤＭＯと協働した「観光地経営」の推進

「観光地経営」の視点に立った持続可能な観光地域づくりに向けて、世界遺産平泉・一関ＤＭＯと協働しながら「稼ぐ観光地」づくりを推進します。

地域にある人やもの、情報等のあらゆる資源を活用して、個性と競争力のある観光魅力づくりに取り組めるよう、必要な支援を行います。

### ④ 他産業・他分野との連携強化

グリーン・ツーリズムや民泊の事業推進、「平泉学」に関する教育コンテンツの活用、緊急時の医療体制づくり、歩車分離やバリアフリーによる安全安心な歩行環境づくりなど、観光産業のみならず、本町の基幹産業である農業資源のほか、教育・文化、医療・福祉、建設など、地域にあるあらゆる資源を活用し、観光地としての魅力強化を図ります。

### ⑤ 観光ＤＸの推進【新規】

観光客の利便性向上に資するアプリの開発・運用や、キャッシュレス決済の導入とそのデータによるマーケティングへの活用、顧客予約管理システム（ＰＭＳ）の導入による情報管理の合理化など、デジタル技術の活用を推進し、観光客の利便性向上と関連産業の生産性向上、関係者間の連携強化等を通じた地域活性化や持続可能な経済社会の実現を目指します。

※　観光 DX(デジタルトランスフォーメーション)とは、業務のデジタル化により効率化を図るだけではなく、デジタル化によって収集されるデータの分析・利活用により、ビジネス戦略の再検討や、新たなビジネスモデルの創出といった変革を行うもの。

## （3） 広域観光連携

### ① 県内自治体との観光連携事業【重点】

平泉の文化遺産に関連する一関市・奥州市の自治体・観光協会・商工会議所・商工会と岩手県県南広域振興局で構成する世界遺産連携推進実行委員会を基軸とした観光誘客や受入態勢整備事業を推進します。

また、県内で世界遺産を有する釜石市・一戸町との世界遺産連携事業を検討しながら、岩手県内に波及効果をもたらす広域観光連携事業を検討します。

### ② 広域的観光連携事業の推進・強化【重点】

奥州藤原氏とゆかりの深い東北各地の自治体や観光関係団体との連携を強化しながら、東北管内の広域観光ルートづくりを積極的に進め、国内外からの誘客促進を図ります。

また、日本遺産「みちのく GOLD 浪漫」を構成する関係自治体や、国指定名勝の「金鶏山・高館・さくら山」でつながる「おくのほそ道の風景地」、松尾芭蕉・西行法師に関連する国内の自治体による広域ネットワークをさらに強化しながら、国内外に向けた情報発信事業を展開します。

### ③ 町民の地域間交流の促進

豊かな自然環境や平泉の文化遺産等の本町の特性・資源を活かしながら、姉妹都市の和歌山県田辺市や友好都市の東京都江東区、平泉の世界遺産と同時登録を果たした世界自然遺産を有する東京都小笠原村をはじめ、他自治体との町民主体の交流活動の展開を促進します。

**＜観光の総合的マネジメントと受け入れ体制の整備の成果指標（KPI）＞**

| 成果指標 | 令和４年（暦年） | 令和９年（暦年） | 概要 |
|---|---|---|---|
| 多世代に渡る「平泉学」の取り組み数 | ７ | ８ | 世界遺産平泉の理念や価値を発信する人材育成への取り組み |

| 成果指標 | 令和４年（暦年） | 令和９年（暦年） | 概要 |
|---|---|---|---|
| 多文化共生事業数 | ２ | ３ | 国際観光都市を目指した地域づくり、人材の育成 |

県道 300 号桜並木

# 第4章　計画の推進に向けて

## 1　推進体制

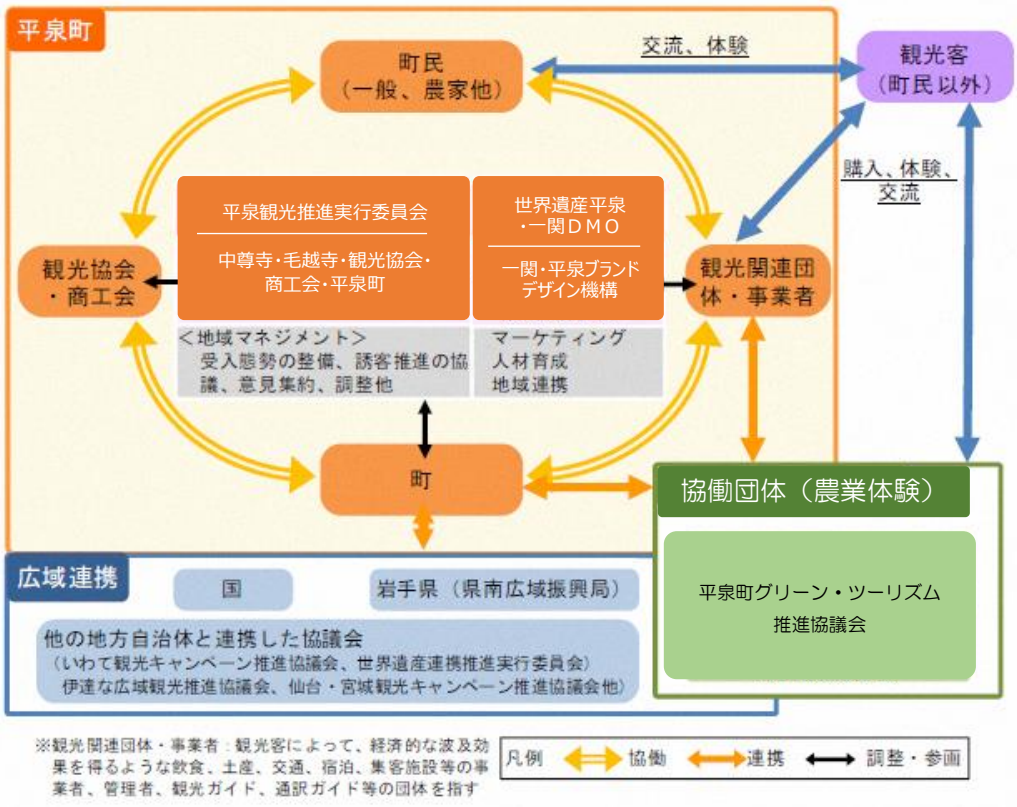
各施策を着実に推進するためには、町民、観光協会・商工会、観光関連団体・事業者及び本町が、効果的に連携していく体制を整える必要があります。

そのため、それぞれの取り組みを総合的にマネジメントし合意形成等を図るための「平泉観光推進実行委員会」を引き続き運営します。

また、「観光地経営」の視点に立った観光地域づくりを進めるため、「世界遺産平泉・一関ＤＭＯ」との協働によるマーケティング等に基づく「稼ぐ観光地」づくりに向けた取り組みを推進します。

さらに、観光客の農泊や農業体験等を通じた地域での交流と経済波及効果の創出を活発化するために、平泉町グリーン・ツーリズム推進協議会の参画を得ながら、町ぐるみでの施策の展開を推進していきます。

共通テーマやコンセプトによる広域的な取り組みについては、当該自治体等との複層的な連携体制を構築し推進していきます。

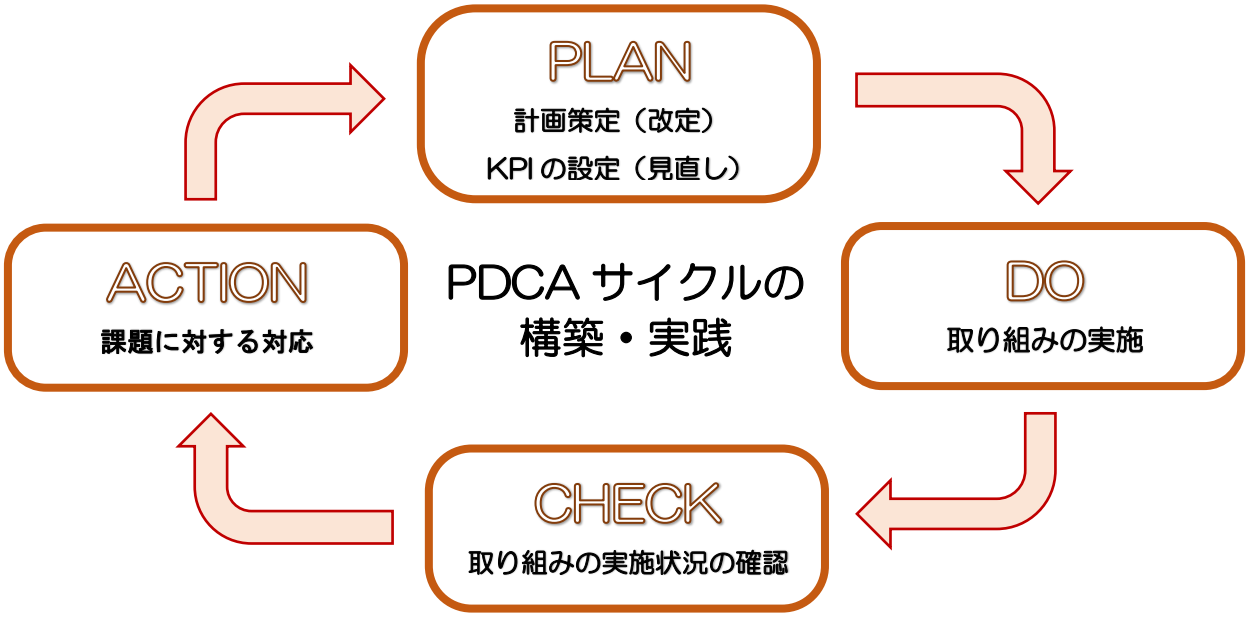



協働による推進組織イメージ（観光の窓口のワンストップ化）

## 2　進捗管理の方法

本計画の確実な実行に向けて、それぞれの取り組みがどのように進められ目標の実現に向けてどの程度寄与しているのかを把握することは重要です。そのため、達成目標として掲げた KPI について、達成状況を把握するための定期的な調査等を実施して、必要に応じて計画の見直しを柔軟に行っていく PDCA サイクルを構築していくこととします。

計画の進捗管理のイメージ



平泉町観光振興計画　発行
平泉町観光商工課
〒029-4192
岩手県西磐井郡平泉町平泉字志羅山 45 番地 2
TEL：0191-46-5572　FAX：0191-46-3080